

国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会

調査結果報告書

平成三十年十一月

平成 30 年 11 月

茨城県議会

平成30年11月14日

茨城県議会議長 山岡 恒夫 殿

国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会
委員長 海 野 透

国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会
調査結果報告書

平成28年第1回定例会において本委員会に付託された「国民体育大会，全国障害者スポーツ大会，及び，これらを活用した地域づくり等に関する諸方策」について，これまでの調査の経過及び結果を次のとおり報告する。

目 次

はじめに	1
第1 調査方針及び調査経過	2
1 調査方針	2
2 調査経過	3
第2 国体・障害者スポーツ大会等を取り巻く現状	4
1 両大会の概要等	4
2 両大会の成績及び本県の競技力等	9
3 スポーツを活かした地域活性化等	13
第3 国体・障害者スポーツ大会の成功等に向けた課題	15
1 両大会の成功に向けた課題	15
2 競技力の向上等	17
3 両大会を通じた地域活性化	18
第4 国体・障害者スポーツ大会の成功等に向けた施策の基本方向	20
1 両大会の成功に向けて	20
2 両大会後も見据えた競技力の向上等	23
3 両大会等を通じた地域活性化に向けた取組	28
おわりに	30

(参考資料)

1 調査に当たった委員	31
2 活動経過	32
3 市町村別競技種目及び競技会場一覧	36
4 競技施設の整備状況等	40
5 中間報告への対応状況	48

は じ め に

スポーツは世界共通の人類の文化であり、我々に大きな感動や活力をもたらすとともに、心身ともに健康で文化的な生活を営む上で必要不可欠なものである。

また、スポーツは明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で重要であるとともに、青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造など、多様な意義を有している。

さらに、障害のあるなしに関わらず、健康づくりはもとより、生きがいづくりのためにもスポーツ活動は重要なものとなっている。

こうした中、2019年には、本県において国内最大のスポーツの祭典である「いきいき茨城ゆめ国体（国民体育大会）」及び「いきいき茨城ゆめ大会（全国障害者スポーツ大会）」が開催される。

特に国民体育大会は昭和49年（1974年）以来45年ぶりの開催となるほか、両大会の関連事業として全国初の開催となる「eスポーツ大会」が行われるなど、両大会は本県のスポーツ振興と文化の発展に寄与するとともに、本県の魅力を全国に発信する絶好の機会でもある。

このため、県のみならず、市町村や競技団体等と連携し、天皇杯・皇后杯の獲得に向けて戦略的に競技力向上に取り組むとともに、選手や役員など来県される方々に対して心のこもった「おもてなし」に努めるなど、両大会の成功に向けて、本県の総力を挙げて臨む必要がある。

また、両大会の成功に向けた取組にとどまらず、その翌年には東京オリンピックのサッカー競技が本県で開催されることも見据え、両大会の遺産（レガシー）として、将来にわたって本県のスポーツ振興や地域の活性化につなげていくことが求められている。

このような中、本委員会では、平成28年6月20日の第1回委員会以降、19回にわたり委員会を開催し、執行部から詳細な説明をいただくほか、競技力の向上に取り組む各競技団体の皆様などを参考人として招き、貴重なご説明やご意見をいただくなど、精力的に調査・検討を進めてきたところである。

本委員会は、調査・検討の集大成として、国体・全国障害者スポーツ大会の推進及びこれらを活用した地域づくり等を効果的に進めるための施策展開の基本方向などについて、ここに報告するものである。

第1 調査方針及び調査経過

1 調査方針

本委員会の設置の経緯等を踏まえ、調査方針を次のとおり決定した。

(1) 調査目的

国民体育大会は、我が国最大のスポーツの祭典として、広く国民の間にスポーツを普及し国民の健康増進と体力の向上を図るとともに、地方スポーツの振興と地方文化の発展に大きく貢献しており、2019年には、本県で開催される予定である。

また、国民体育大会に併せて開催される全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加の推進に寄与することが期待されている。

このため本県では、新たに国体・障害者スポーツ大会局を設置し、両大会の開催に向けた対応を強化しているが、これら両大会の成功に向け、県の総力を持って臨む必要がある。

さらに、その翌年(2020年)には、東京オリンピック・パラリンピックなど、本県に関連する大規模なスポーツイベントが開催予定であることから、これらの機会を効果的に活用し、いばらきの魅力発信を推進するとともに、スポーツ文化、観光、産業等の振興や地域の活性化につなげていくことが重要である。

そこで、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の推進及びこれらを活用した地域づくり等に関する諸方策について調査・検討を行う。

(2) 調査項目

- ① 本県のスポーツ活動の現状
- ② 国体・障害者スポーツ大会の成功に向けた課題、対応
- ③ 競技力向上等に向けた課題、対応
- ④ 国体・障害者スポーツ大会を通じた地域振興策等

(3) 調査期間

本委員会の調査期間は、平成30年11月までの概ね30カ月とし、平成30年第4回定例会の会期中に調査結果の報告を行う。

2 調査経過

本委員会は、平成28年6月20日の第1回委員会において調査方針を決定して以降、19回にわたり委員会を開催し、調査・検討を進めてきた。

調査・検討に当たって、まず、平成28年は、主に本県の競技力向上に向けた取組等について調査・検討を行い、執行部からの説明聴取のほか、競技団体や企業、競技会場となる自治体等の方々を参考人として招致し、ご説明やご意見をいただいた。

また、総合開・閉会式等が行われる笠松運動公園において、施設の整備状況等を確認するため県内調査を行った。

そして、第7回委員会において、それまでの調査・検討過程を通じて取りまとめた競技力向上等に向けて取り組むべき施策について提言を行った。

また、平成29年は、主に国体・全国障害者スポーツ大会の推進及びこれらを活用した地域づくり等に関する諸方策について調査・検討を行い、両大会の成功に向けた課題・対応のほか、両大会を通じた地域振興策等について執行部から説明聴取を行った。

併せて、参考人として県競技力向上対策本部が雇用しているスポーツ専門員の方々や（公社）さいたま観光国際協会の方を参考人として招致し、それぞれ活動状況や国体を契機としたスポーツツーリズムの振興等について、ご説明やご意見をいただいた。

そして、第13回委員会において、それまでの調査・検討を通じて取りまとめた、両大会の推進及びこれらを活用した地域づくり等を効果的に進めるための施策の基本方向を決定し、平成29年第3回定例会において議長に中間報告を行った。

さらに、平成30年は、中間報告で取りまとめた提言への対応状況について、執行部から説明聴取を行った。

また、平成28年に引き続き競技団体の方々を参考人として招致し、前回の意見聴取以降における競技力向上に向けた取組のほか、国体に向けた意気込み等について、ご説明やご意見をいただいた。

さらに、3回にわたり県内調査を行い、県内各地域における主な施設の整備状況を確認するとともに、平成30年（2018年）の開催県である福井県（福井しあわせ元気国体）へ県外調査を行った。

そして、第17回委員会以降は、両大会の開催に向けた取組等について執行部から説明聴取を行うとともに、それまでの調査・検討状況について整理し、取り組むべき内容等について活発に議論を行うなど、提言の取りまとめに向けて調査・検討を進め、第19回委員会において、提言内容を含めた本委員会の調査結果報告を取りまとめた。

第2 国体・障害者スポーツ大会等を取り巻く現状

1 両大会の概要等

(1) 両大会の概要

大会名	いきいき茨城ゆめ国体 (第74回国民体育大会)	いきいき茨城ゆめ大会 (第19回全国障害者スポーツ大会)
目的	広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図り、地方スポーツの振興と地方文化の発展を図ることを目的とする。	障害のある選手が競技等を通じスポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加の推進に寄与することを目的とする。
開催期間	2019年9月28日(土) ～10月8日(火)【11日間】 会期前日程：2019年9月7日(土) ～9月16日(月)	2019年10月12日(土) ～10月14日(月)【3日間】
実施競技	○正式競技：37競技 ○特別競技：1競技 ○公開競技：5競技 ○デモンストレーションスポーツ：31競技	○個人競技：6競技 ○団体競技：7競技 ○オープン競技：6競技
参加者数	(選手・監督)約23,000人	(選手・監督)約5,500人
スローガン	「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」	
マスコット	いばラッキー	
イメージソング	「そして未来へ」 作詞・作曲 兒玉苑香／編曲 大寄慶子／歌 磯山 純	
開閉会式会場	笠松運動公園陸上競技場	

(2) 文化プログラム

いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会文化プログラムは、県民総参加の実現に向け、文化・芸術活動を通じて多くの県民に両大会へ参加してもらうとともに、本県の魅力を全国に発信するものである。

なお、eスポーツの全国大会である「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKI」についても、文化プログラムの一つとして開催が予定されている。

【参考1】「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKI」の概要

(1) 目的等

- ・年齢や性別，ハンディキャップの有無にかかわらず，両大会に参加できる環境を提供し，大会開催の目標の一つである共生社会づくりのきっかけとする。
- ・また，「最初に国体で都道府県対抗のeスポーツ大会が行われた県」として本県を発信し，スポーツツーリズムの振興及びスポーツ活動への民間活力の導入を図る。

(2) 実施競技

サッカー（ウイニングイレブン 2019）

※選定理由

- ・東京オリンピック大会において本県が会場地である競技。
- ・国内で高い認知度を有する競技であるとともに，県内にも2つのJリーグチームを有し，多くのファンがいること。

(3) 実施方法等

オープンの部及び少年の部に分け，それぞれ3人一組による団体戦による。

(4) 茨城プレ大会

- ・開催日等：平成30年9月15日（土），つくば国際会議場（大ホールほか）
- ・競技：サッカー（ウイニングイレブン 2019）
- ・方式：3人一組による団体戦（試合時間10分＋PK戦）
- ・参加資格：

①オープンの部…県内に居住又は在勤・在学する者で構成

②少年の部………県内に居住又は県内に所在する高校に在籍する生徒で構成

〔※オープンの部出場者の年齢は問わない。ただし，チームの構成員のうち3名以上が高校に在籍する生徒の場合は，少年の部に出場するものとする。〕

- ・出場数：オープンの部25チーム，少年の部16チーム

(5) 大会までのスケジュール

- ・2019年4月～7月・・・予選会（各都道府県代表を決定）
- ・2019年10月4～6日・・・本大会（全国の代表48チームによる競技会）

(3) 両大会の開催に向けた現状等

① 両大会における参加見込み数

先催県の実績等を踏まえると，両大会の開催期間中には数多くの選手団や大会関係者，観覧者等が来県することが見込まれている。

特に，全国障害者スポーツ大会では，ハンディキャップを持つ選手や観覧者等が多く来県することが見込まれている。

【参考 1】参加者数見込み（選手団，競技団体・報道などの大会関係者，観覧者を含む。）

国体	11 日間で延べ 70 万人～90 万人
全国障害者スポーツ大会	3 日間で延べ 9 万人

※平成 30 年福井国体：559,821 人，福井大会：98,619 人（いずれも速報値）

【参考 2】先催県における総合開・閉会式の参加人数及びバス台数

	国体			全国障害者スポーツ大会		
	平成 28 年 岩手国体	平成 29 年 愛媛国体	平成 30 年 福井国体 (速報値)	平成 28 年 岩手大会	平成 29 年 愛媛大会	平成 30 年 福井大会 (速報値)
総合開会式 (開会式)	30,035 人 473 台	28,783 人 477 台	25,333 人 —	18,718 人 557 台	21,565 人 600 台	23,904 人 —
総合閉会式 (閉会式)	13,389 人 191 台	14,686 人 199 台	15,030 人 —	18,253 人 490 台	18,590 人 605 台	18,270 人 —
計	43,424 人 664 台	43,469 人 676 台	40,363 人 —	36,971 人 1,047 台	40,155 人 1,205 台	42,174 人 —

【参考 3】先催県における宿泊実績

	国体		全国障害者スポーツ大会	
	平成 28 年 岩手国体	平成 29 年 愛媛国体	平成 28 年 岩手大会	平成 29 年 愛媛大会
宿泊延べ人数	143,737 人	142,726 人	28,114 人	27,678 人
1 日最大宿泊者数	14,828 人	14,946 人	6,142 人	6,083 人
うち車椅子利用者数	—	—	294 人	300 人

② 県民の認知度

平成 29 年度県政世論調査（平成 29 年 7 月実施）の結果によると，国体が本県で開催されることの認知状況は，平成 28 年度に実施した前回の調査に比べて 13 ポイント上昇し，54.6%という状況にある。

また，認知度をエリア別で見ると，県南，県西が，年齢別では 20 歳代，30 歳代がそれぞれ低い状況にある。

【参考 1】国体の認知度（参考 1～3 まで，平成 29 年度県政世論調査結果）

	H29 年度	H28 年度	H29—H28
「国体も茨城県での開催も知っている」	54.6%	41.6%	13.0
「国体は知っているが，茨城の開催は知らない」	27.9%	41.3%	△13.4
「国体も茨城県での開催も知らない」	17.3%	16.7%	0.6

【参考2】地域別認知度「国体も知っているし、茨城県で開催されることも知っている」

区分	県北	県央	鹿行	県南	県西
H29年度	67.2%	62.8%	55.3%	48.2%	42.9%
H28年度	49.0%	58.7%	44.6%	33.4%	32.2%
H29-H28	18.2	4.1	10.7	14.8	10.7

【参考3】年齢別認知度「国体も知っているし、茨城県で開催されることも知っている」

区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男	35.0%	43.4%	47.6%	62.9%	60.3%	61.8%
女	35.6%	45.6%	63.4%	60.6%	52.9%	55.0%

③ 両大会への県民の参加意識

平成29年度県政世論調査結果によると、県民の多くの方々が両大会に何らかの形で参加したい意向を持っている。

【参考】国体や障害者スポーツ大会で参加したい項目（平成29年度県政世論調査結果）

項目	割合
「応援で参加したい」	51.7%
「ボランティアとして参加したい」	10.0%
「その他」	10.7%

④ 大会運営及び環境整備

「①両大会における参加見込み数」のとおり、両大会の開催期間中には数多くの選手団等が来県することから、宿泊・輸送・交通対策などの対応が必要となる。

なお、国では国民の健康増進のため、受動喫煙防止対策を強化する健康増進法の改正が行われたところである。

【参考1】茨城国体の競技施設の禁煙・分煙等の状況（平成30年8月現在）

	建物・敷地内 禁煙	建物内 禁煙	建物内 分煙	その他	計
競技施設数	13施設	58施設	2施設	1施設	74施設
構成比	17.6%	78.4%	2.7%	1.3%	100.0%

【参考2】先催県における国体会場の受動喫煙防止対策の状況

	平成26年 長崎国体	平成27年 和歌山国体	平成28年 岩手国体	平成29年 愛媛国体	平成30年 福井国体
開閉会式会場 敷地内喫煙場所数	8箇所	3箇所	5箇所	5箇所	8箇所

(4) 両大会に対する県民の期待

平成 29 年度県政世論調査結果によると、両大会の開催により期待することとしては、「茨城のイメージアップ」が約 5 割で最も高くなっている。

【参考】両大会の開催により期待すること（平成 29 年度県政世論調査結果）

項目	割合
「茨城のイメージアップ」	50.7%
「地元経済の活性化」	41.0%
「障害者の社会参加の推進や障害者スポーツの普及」	23.1%
「茨城のスポーツ人口の増加や健康づくりの推進」	22.9%
「県内体育施設の充実」	20.8%
「県内選手の競技力向上やスポーツ指導者の充実」	19.0%
「おもてなしの心の醸成」	16.9%
「記憶に残る開会式や閉会式の式典」	9.8%
「ボランティア人材の養成」	8.7%
「その他」	0.7%

2 両大会の成績及び本県の競技力等

(1) 両大会における本県の成績

① 国民体育大会

福井国体については、天皇杯順位は 16 位、皇后杯順位は 14 位という結果に終わり、前回の愛媛大会から天皇杯、皇后杯ともに順位を 7 つ上げたものの、目標としていた天皇杯順位 1 ケタ台を達成することができなかった。

今大会は、成年種別の活躍により入賞数及び獲得点数を伸ばすことができた一方、少年種別及び団体種目での入賞数及び獲得点数が伸び悩んだことが、目標を達成できなかった大きな要因である。

【参考 1】国体における本県の成績の推移

	天皇杯 (男女総合) 順位 (得点)	皇后杯 (女子総合) 順位 (得点)
平成 26 年 (長 崎 県)	31 位 (852.5 点)	37 位 (441.5 点)
平成 27 年 (和歌山県)	32 位 (839.0 点)	25 位 (488.5 点)
平成 28 年 (岩 手 県)	22 位 (981.5 点)	14 位 (660.5 点)
平成 29 年 (愛 媛 県)	23 位 (948.0 点)	21 位 (558.0 点)
平成 30 年 (福 井 県)	16 位 (1120.0 点)	14 位 (689.5 点)

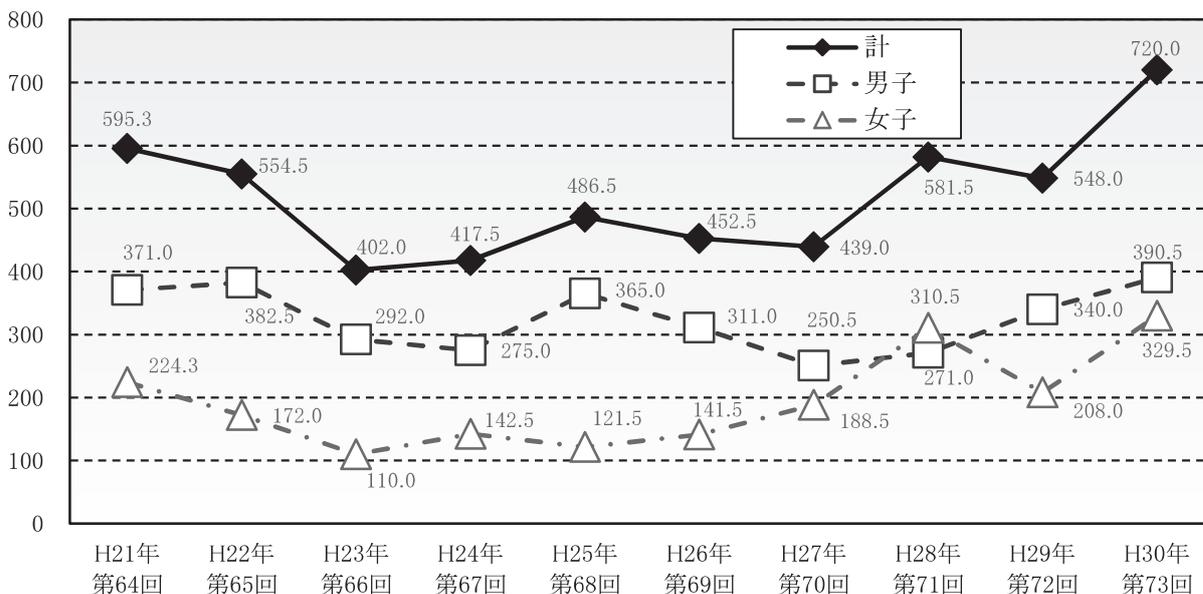
【参考 2】本県成績に係る福井国体と愛媛国体との比較

		平成 30 年 福井国体	平成 29 年 愛媛国体	平成 30 年－平成 29 年 増減
参加選手・監督数		471 人	449 人	22 人の増
出場競技・種目数		37 競技 278 種目	36 競技 248 種目	1 競技 30 種目の増
入賞競技・種目数		25 競技 111 種目	26 競技 78 種目	1 競技減 33 種目の増
うち上位入賞*種目数		39 種目	26 種目	13 種目の増
成年	男子種別得点	237.0 点	153.0 点	84.0 点の増
	女子種別得点	246.5 点	125.0 点	121.5 点の増
少年	男子種別得点	153.5 点	187.0 点	33.5 点の減
	女子種別得点	83.0 点	83.0 点	増減なし
団体種目入賞数 (獲得点数)		23 種目 (357.0 点)	20 種目 (306.0 点)	3 種目の増 (51.0 点の増)
うち上位入賞*種目数		10 種目	6 種目	4 種目の増

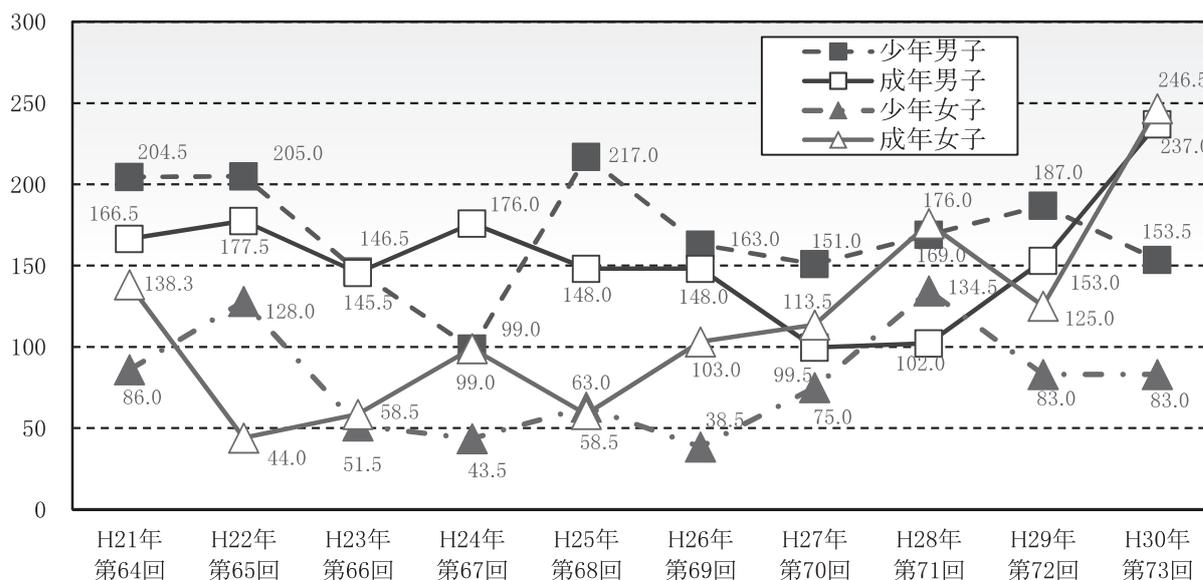
※上位入賞：1 位から 3 位までの入賞

【参考3】過去10大会の競技得点の推移

(1) 男女別得点 (単位: 点)



(2) 種別得点 (単位: 点)



② 全国障害者スポーツ大会

全国障害者スポーツ大会において、本県のここ数年における獲得メダル数(個人)は、概ね35個程度、そのうち金メダルは13個程度であったが、福井大会では52個、うち金メダルは24個獲得した。

【参考】全国障害者スポーツ大会における本県のメダル獲得数(個人)の推移

	メダル数 (うち金メダル数)
平成26年(長崎県)	31個(10個)
平成27年(和歌山県)	40個(18個)
平成28年(岩手県)	32個(12個)
平成29年(愛媛県)	30個(13個)
平成30年(福井県)	52個(24個)

(2) 学校等における体育・スポーツ活動及びスポーツ環境

児童・生徒における体育・スポーツ活動については、本県の調査対象学年（小学校5年生, 中学校2年生）は男女とも得点合計が全て全国で上位に入っており、高い体力を維持している。

また、本県のスポーツ少年団の団数、団員数及び指導者数は全国第3位の登録数となっており、活発に活動が行われている。

一方、各競技種目の活動拠点である県内の体育・スポーツ施設については、前回の国体開催に合わせて整備された笠松運動公園をはじめ、昭和40年代から50年代にかけて整備した施設が多くを占めており、老朽化が進んでいる。

【参考1】本県における「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の推移

	調査方法	小学校5年生		中学校2年生	
		男子	女子	男子	女子
平成25年度	悉皆	3位	2位	1位	1位
平成26年度	悉皆	3位	2位	2位	2位
平成27年度	悉皆	2位	2位	2位	2位
平成28年度	悉皆	2位	2位	1位	2位
平成29年度	悉皆	2位	2位	2位	2位

【参考2】平成29年度スポーツ少年団登録状況

	団数	団員数	指導者数
1位	北海道 (1,980 団)	埼玉県 (48,282 人)	埼玉県 (18,015 人)
2位	埼玉県 (1,630 団)	北海道 (39,260 人)	北海道 (9,053 人)
3位	本 県 (1,358 団)	本 県 (31,815 人)	本 県 (8,603 人)

(3) 障害者スポーツ

障害者におけるスポーツ活動について、過去1年間に障害児・障害者がスポーツ・レクリエーションを行った割合は44.4%であり、成人の割合に比べて低い状況にある。

また、本県の障害者数は、身体・知的・精神ともに増加傾向にあるが、「ゆうあいスポーツ大会」の参加者は横ばい、身体・精神の各障害者スポーツ大会の参加者は減少傾向にある。

さらに、指導員については、その拡大と資質向上が求められている。

【参考1】障害者のスポーツへの参加状況（平成25年度文部科学省 全国実態調査）

- ・障害児・者が過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した割合：44.4%
- ・成人の年1回以上の運動・スポーツ実施者の割合：74.4%

【参考 2】 障害者数の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
身体障害者	91,640 人	92,573 人	91,711 人	89,907 人	88,845 人
知的障害者	19,919 人	20,534 人	21,210 人	21,878 人	22,593 人
精神障害者	13,458 人	13,362 人	15,761 人	16,671 人	17,793 人
計	125,017 人	126,469 人	128,682 人	128,456 人	129,231 人

【参考 3】 各大会への参加者数の推移

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ゆうあいスポーツ大会 ^{※1} (知的障害者)	1,080 人	1,093 人	1,026 人	833 人	968 人
身体障害者スポーツ大会	544 人	550 人	524 人	329 人	397 人
精神障害者スポーツ大会 ^{※2}	123 人	119 人	116 人	110 人	143 人
計	1,747 人	1,762 人	1,666 人	1,272 人	1,508 人

※ 1 レクリエーション競技参加者を除く。

※ 2 平成 30 年度から競技種目が増加。

【参考 4】 障害者スポーツ指導員登録数 (平成 30 年 8 月末現在)

	上級	中級	初級	計
本県	10 人 (1.8%)	69 人 (12.5%)	474 人 (85.7%)	553 人 (100%)
全国	795 人 (3.1%)	3,690 人 (14.4%)	21,073 人 (82.5%)	25,558 人 (100%)

3 スポーツを活かした地域活性化等

(1) スポーツイベント等の開催

鹿島アントラーズや水戸ホーリーホックなどプロスポーツチームについて、その本拠地で行われるホームゲームには、年間を通じて県内外から多くの方々が観戦に訪れている。

また、マラソンやアウトドアスポーツの参加者、応援者など、スポーツレクリエーションを目的とする観光客数は年間1千万人余りとなっている。

【参考1】プロスポーツチームのホームゲーム等の開催状況等（2016シーズン）

プロスポーツチーム名	年間開催試合数	年間観客数
鹿島アントラーズ（J1）	25	421,794人
水戸ホーリーホック（J2）	21	112,668人
サイバーダイン茨城ロボッツ（B2）	30	31,450人

【参考2】訪問目的別構成比（平成29年観光客動態調査）

分類	自然	歴史文化	温泉健康	スポーツレクリエーション	都市型観光	その他	行祭事イベント	計
入込客数 (単位:千人)	7,294	10,409	1,984	10,659	8,176	8,889	13,874	61,284
構成比	11.9%	17.0%	3.2%	17.4%	13.3%	14.5%	22.7%	100.0%

(2) スポーツを核にした地域の取組

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体である「ホストタウン」について、本県では9件*登録されている。

また、大会参加国の事前キャンプ誘致については、県内28市町*が誘致意向を示している。（※平成30年9月現在）

さらに、オリンピック会場については、平成29年7月10日の国際オリンピック委員会（IOC）理事会において、茨城カシマスタジアムがサッカー競技会場として正式に承認されたところである。

同スタジアムについては、大型映像装置の増設や老朽化した屋根鉄骨の修繕等、計画的な修繕を行い、観戦者にとって快適で魅力あるスタジアムづくりを進めている。

また、「神栖市矢田部サッカー場」には、県内外から年間約10万人の利用者が合宿・試合等で訪れており、スポーツ合宿の中核施設として定着している。

さらに、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」及びその沿線地域では、日本一のサイ

クリングエリアを目指し，県及び市町村等の連携の下，ソフト及びハードの両面からサイクリング環境の整備を進めている。

(3) 県民のスポーツ活動

「茨城県スポーツ推進計画」においては，幼児から高齢者まで，ライフステージに応じた多様な運動やスポーツの機会の創出を図ることとしているが，本県の成人男女で週1回以上運動やスポーツを実施した人の割合は，34.7%であり，これは，全国平均の42.5%と比較し，7.8ポイント低い状況にある。

一方，子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々が，それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるとともに，地域住民により自主的・主体的に運営されている「総合型地域スポーツクラブ」は，本県において37市町村に51クラブが創設^{*}されている。(※平成30年9月現在)

【参考】成人男女で1年間に運動やスポーツを実施した人の割合〔調査人数1,078人〕
(平成28年度県政世論調査結果)

週に1回以上	34.7%
週に4回以上	10.4%
週に2～3回	14.2%
週に1回	10.1%

(4) スポーツツーリズム等の取組

観光いばらきホームページやSNS等を活用し，サイクリングやパラグライダーなど，自然に恵まれた本県ならではのスポーツや，マラソン大会やトレイルラン大会などのスポーツイベントのほか，スポーツ合宿等についても紹介・PRを行っている。

さらに，プロスポーツ観戦と歴史・文化，グルメなどを堪能できる周遊観光を結びつけたツアーを旅行会社に提案するとともに，茨城空港の就航先から，本県で行われるスポーツ合宿やスポーツ大会に参加する団体等に対して支援している。

一方，スポーツツーリズムを推進するための環境整備については，前述したとおり，「つくば霞ヶ浦りんりんロード」及びその沿線地域でサイクリング環境の整備を進めている。

なお，スポーツツーリズムの推進は，観光振興や地域の活性化を図る上で大変重要であることから，県や市町村，関係団体で構成する「スポーツツーリズム推進検討会」を開催し，スポーツツーリズムに関する国の動向や，他県の先進的な取組状況などについて，情報共有や意見交換などを行っている。

第3 国体・障害者スポーツ大会の成功等に向けた課題

1 両大会の成功に向けた課題

(1) 両大会の普及啓発

県政世論調査結果において、「国体も茨城県での開催も知っている」県民の割合が5割台半ばであることを踏まえ、両大会開催の認知度について、より一層向上させる必要がある。

このため、広報紙やホームページ等を活用した宣伝や、新聞、ラジオ等に対するパブリシティ活動を強化することによって、両大会に係るイベント内容や参加方法等について、きめ細かな情報を発信していく必要がある。

なお、「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKI」については、年齢や性別等を問わず誰もが楽しめるというeスポーツの特性を活かし、県民総参加の機運醸成につなげていく必要がある。

(2) 本県の情報発信

両大会の開催は、県内外から多くの選手や関係者が県内各地の競技会場等を訪れることから、本県の魅力を発信する絶好の機会である。

また、本県の特色ある多彩な伝統行事や文化・芸術活動などを、本県のかげがえのない財産として県内外に広く発信することにより、県民の郷土愛の育成を図る機会でもある。

このため、両大会のあらゆる機会を活用して、観光や文化など本県の魅力ある地域資源を積極的に発信していく必要がある。

さらに、土産品や県産食材を使用した弁当、旅行商品等の開発や販売促進等を通じて、本県のイメージアップを図っていく必要がある。

(3) おもてなし等の県民運動の推進

多くの県民が両大会に関わることが出来るよう、参加機会の創出を図るとともに、全県的な県民運動の盛り上げが必要である。

このため、県民一体となったおもてなし機運の醸成とともに、観光事業者や観光ボランティアガイド、両大会のボランティアについて、その養成とともに知識や接遇のレベルアップを図る必要がある。

また、競技会場や観光地に限らず、県内のいたるところで「花いっぱい運動」に取り組む、選手や来県者の誰もが心休まり安心できる環境づくりを行っていく必要がある。

さらに、イメージソングやダンスの普及を図るとともに、企業協賛への協力の働きかけを行っていく必要がある。

(4) 円滑な大会運営及び環境等の整備

両大会の円滑な運営に向けて、関係機関と十分に連携・協力し、選手団や大会関係者等の宿泊、輸送及び交通対策に万全を期して取り組む必要がある。

また、競技会場等において、来県者が安全かつ快適に利用できるよう環境整備を図っていく必要がある。

特に、全国障害者スポーツ大会においては、ハンディキャップを持った方々に安心してお越しいただくために、会場内のバリアフリー対策や各種ボランティアの確保、養成に取り組む必要がある。

なお、国の動向を注視しつつ、競技会場等における受動喫煙防止対策に取り組む必要がある。

2 競技力の向上等

(1) 選手等の育成・強化

茨城国体において天皇杯・皇后杯を獲得するためには、男女とも大幅な競技得点の上乗せが必要であり、少年選手の強化及び団体競技の強化が不可欠である。

また、福井国体の結果を踏まえ、以下の具体的な課題について取り組む必要がある。

- 少年種別、特に団体競技については、他県の強豪チームとの試合を数多く実施し、実戦経験を積ませることで、プレッシャーのかかる大事な戦いで勝ち切る力をつける。
- 成年種別の団体競技については、県内に全国でも上位の実力を有している大学や企業があるため、その大学や企業に対して有力選手が本大会に出場できるよう理解を求めていく。
- 成年・少年ともに、本県は選抜チームで戦う競技が多いため、事前に強化合宿を繰り返し行い、チームワークの向上や選手強化を図っていく。
- その他、天皇杯及び皇后杯を獲得した福井県の選手強化手法をしっかりと学び、本県が劣っている部分を十分把握した上で、茨城国体に向けた選手強化を進めていく。

なお、こうした取組は一過性のものではなく、国体後も引き続き本県の競技力が維持・向上できるよう、継続して取り組んでいく必要がある。

(2) 障害者スポーツの普及拡大

障害者スポーツにおける選手の育成・強化のため、各競技団体や特別支援学校等と連携し、障害のある人がスポーツを楽しむ機会の確保や普及啓発に取り組む必要がある。

特に、全国障害者スポーツ大会については、開催県の場合、個人競技が約150名、団体競技が全て出場可能となることから、全ての競技種目に出場できるよう競技人口の拡大を推進する必要がある。

また、障害のある人の特性に応じた配慮や工夫など多岐にわたるニーズに対応するため、指導者の質・量の向上が必要である。

さらに、障害者スポーツに対する理解を広げるとともに、障害のある人がスポーツ活動に参加しやすい環境を整えるため、スポーツ施設のバリアフリー化やボランティアの確保等に取り組む必要がある。

(3) 競技施設などスポーツ環境の整備

両大会終了後、将来にわたり本県の競技力向上等を図っていくため、両大会の開催を契機に、競技施設の整備をはじめとしたスポーツ環境の整備に取り組む必要がある。

3 両大会を通じた地域活性化

(1) 両大会後のおもてなし等の県民運動の展開

両大会の開催を契機として、両大会終了後もおもてなしや大会運営ボランティア等の活動を、県民運動として取り組んでいく必要がある。

さらに、両大会の翌年に開催される東京オリンピック・パラリンピックや、年間を通じて県内各地で開催されるスポーツイベント等において、こうした県民運動に取り組んでいく必要がある。

(2) スポーツイベント等の誘致

両大会後も本県の競技力向上や競技施設の活用を図るとともに、交流人口の拡大や地域の活性化につなげるため、プロスポーツ観戦やスポーツ大会をはじめとするスポーツイベントのほか、スポーツ合宿等の積極的な誘致・受入に取り組んでいく必要がある。

また、その誘致等に当たっては、イベントの規模やスポーツの種類に応じて、既存施設や両大会開催を契機に整備した施設を積極的に活用し、スポーツイベント等を開催する必要がある。

なお、eスポーツについても「eスポーツ大会」の開催を契機として、その活用を図る必要がある。

(3) スポーツイベント等を通じた観光や県産品等の紹介・PR

本県は、観光地や県産品、農林水産物など魅力ある地域資源のほか、ラジオ体操の考案者を輩出するなど優れた歴史や文化も有している。

プロスポーツ観戦やスポーツ大会といったスポーツイベント等の開催時には、県内外から数多くの選手や関係者が県内各地を訪れることから、これらの資源をPRする絶好の機会ととらえ、積極的に紹介・PRを行う必要がある。

また、土産品や県産品などの販売促進等を図り、交流人口の拡大及び本県のイメージアップ等を図る必要がある。

(4) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

スポーツに参加する人の割合を伸ばすために、スポーツイベント等やスポーツ教室を開催するなど、県民のスポーツへの参加機会の拡大を進める必要がある。

また、県民誰もが気軽にスポーツに参加できる環境を整備するとともに、スポーツ活動を通じて生きがい・健康づくりや社会参加を進めていく必要がある。

(5) スポーツツーリズムの推進

スポーツイベント等やスポーツ体験を目的として来県された方々に対して、観光による消費拡大や土産物等の販売促進に結びつくような取組が必要である。

第4 国体・障害者スポーツ大会の成功等に向けた施策の基本方向

1 両大会の成功に向けて

(1) 県民総参加の機運醸成

- ① 両大会に対する県民の認知度が低い状況にあることから、県民総参加に向けて、市町村や競技団体等と連携し、更なる機運醸成及び広報活動の推進に取り組むべきである。

特に、炬火リレーをはじめとする炬火イベントや総合開会式における集火イベントは、県民が参加意識や一体感を感じられる重要かつ効果的なイベントであることから、市町村に対する支援も含め、その実施に向けた取組を推進すべきである。

また、各競技種目の体験会を開催するなど、県民が県内各地で開催される各競技種目を身近に感じ、理解を深めるための取組についても推進すべきである。

さらに、各競技会場での応援等、両大会への県民の参加促進を図るべきである。

- ② 都道府県代表によるeスポーツの大会は、全国初となる試みであり、注目度の高い事業である。

このため、大会の成功に向けた取組を推進するとともに、eスポーツ大会を活用し、両大会の機運醸成を図るべきである。

また、同大会の開催をきっかけに、新たなスポーツツーリズムとしてeスポーツの活用を検討すべきである。

なお、こうした取組の推進に当たっては、ゲームに依存して日常生活に支障を来す「ゲーム障害」が社会的な問題になっていることから、国の対策等についても注視すべきである。

- ③ その他、広報活動の推進に当たっては、以下の点に重点を置いた取組を推進していくべきである。

- ・学校行事や市町村のイベントなどを活用した、県内外におけるPR活動の実施
- ・公共交通機関及び民間企業等におけるラッピング車両の実施
- ・インターネットによる電子広告やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の積極的な活用
- ・図書館の活用
- ・シルバーリハビリ体操を通じた取組
- ・「つくば霞ヶ浦りんりんロード」と連携した取組
- ・両大会に係るノベルティグッズの活用
- ・マスコットキャラクター（いばラッキー）を活用した商品開発
- ・両大会に係るグッズの販売促進
- ・環境に配慮した取組の検討

(2) 本県の魅力発信

- ① 両大会は、県民一人ひとりが自然、歴史、文化、農林水産物及び伝統工芸品など、本県が有する魅力ある多様な地域資源を再認識するとともに、それらを県内外にPRすることができる絶好の機会でもある。

このため、開閉会式をはじめとしたイベントや競技会場など、県内各地において「いばらきの魅力」の発信に積極的に取り組むべきである。

- ② 開催県としての注目の高まりを積極的に活用し、広報活動の推進とともに、旅行会社等に対し旅行商品の造成等を提案するなど、誘客促進を図るべきである。

(3) おもてなしをはじめとした県民運動等の推進

- ① 前回の国体では「水と緑のまごころ国体」をテーマに、県内各地で「まごころ」を込めたおもてなしに取り組んだところである。

両大会においても、こうした財産を引き継ぐとともに、いばらき観光おもてなし推進条例の趣旨等を踏まえ、おもてなしをはじめとした県民運動の推進に積極的に取り組むべきである。

なお、おもてなし活動の推進に当たっては、「いばらき観光マイスター制度」における認定者を活用するとともに、関係団体との連携・協力を図るべきである。

- ② その他、県民運動の推進に当たっては、以下の点に重点を置いた取組を推進していくべきである。

- ・地域団体と連携した「花いっぱい運動」の推進
- ・ダンスコンテストの開催など、イメージソングやダンスの普及啓発
- ・両大会における財政負担の軽減及び認知度向上のため、企業・団体からの協賛制度の推進
- ・茨城の豊かな農林水産物を食べていただくなど、本県ならではのおもてなしの検討

(4) 大会運営における環境等の整備

- ① 大会期間中には、全国から数多くの選手団や大会関係者、観覧者等が来県することが見込まれている。

このため、訪れる全ての方々の安全・安心の確保に向けて、最大限の警備体制を講じるべきである。

また、悪天候時における大会運営や対応等について十分に検討すべきである。

さらに、選手や観覧者等がスムーズに移動できるよう、各会場周辺における輸送・交通体制や駐車場について十分に整備・確保すべきである。

併せて、選手や大会関係者の宿舍の選定、確保及び配宿等については、市町村や関係団体と連携の上、県が中心となって適切に対応すべきである。

- ② 競技会場周辺及び地域における清掃や除草など環境美化活動は、単なる清掃活動にとどまらず、来県者に対する重要なおもてなしの一つでもあることから、より一層推進すべきである。

また、競技会場のトイレについては、来県者へのおもてなしとともに本県のイメージアップのため、市町村などの施設管理者の意向も踏まえ、洋式化及び温水洗浄便座の設置を検討すべきである。

さらに、競技会場周辺はもとより、県内全域におけるフリーWi-Fiなど通信環境の整備を検討すべきである。

- ③ 国では、受動喫煙による健康への悪影響をなくし、健康の増進を図る観点から、受動喫煙防止対策を強化する健康増進法の改正が行われたところである。

このため、各会場において同法に合った具体的な受動喫煙防止対策を検討すべきである。

なお、その検討に当たっては、喫煙マナーの向上や分煙環境の整備など、喫煙者と非喫煙者が共存できる環境づくりに配慮すべきである。

- ④ 年齢や性別、障害の有無等を問わず、訪れる全ての方々が快適に参加・観覧等できるような環境づくりに取り組むことが重要である。

このため、両大会における各競技会場において、多機能トイレの整備を検討すべきである。

また、特に、全国障害者スポーツ大会の各競技会場では、様々な障害の特性に十分配慮し、介助ボランティアの確保・養成や、トイレ内への大人用ベッド（ユニバーサルシート）の設置をはじめとした必要用具の整備など、ハード・ソフト両面における環境の整備を推進すべきである。

なお、こうした施設のバリアフリー化に当たっては、両大会後の施設利用及び障害者スポーツの推進を見据え、常設化を検討すべきである。

【再掲：2(5)④】27 ページ

- ⑤ 県内44市町村全てで、両大会のいずれかの競技が開催されることから、市町村との連携・協力が重要である。

このため、県と市町村が意見交換や協議等を十分に行い、より一層の連携・協力を図るべきである。

なお、その際、市町村の業務分担や経費負担が過大なものにならないよう配慮すべきである。

(1) 選手の育成・強化等

ア ジュニア選手の発掘・育成・強化

- ① ジュニア選手の発掘・育成等に当たっては、本県において競技を継続し、競技引退後も指導者等として引き続き本県で活動できるよう、競技団体をはじめ、筑波大学や流通経済大学など、スポーツ医・科学に関する先端的な研究等に取り組む大学等と連携して、中長期的な視点に立った戦略的・体系的な強化計画を策定すべきである。

また、計画の策定に当たっては、県外からの優秀なジュニア選手の受入れについても、あわせて検討すべきである。

なお、ジュニア選手の発掘においては、特定の競技種目に限らず、学校の授業や運動部活動等、児童生徒一人ひとりの能力に適した競技種目を見つけることができるよう、広い視野に立って選手の発掘に努めるべきである。

- ② ジュニア選手の発掘・育成等において、学校における運動部活動が中心となっている現状を踏まえ、競技団体と連携し、運動部活動の充実・強化を図るべきである。

なお、特に、公立学校における運動部活動の充実・強化に当たっては、部員募集の在り方の検討を進めるとともに、県立高校入学者選抜における特色選抜の活用や、生徒の競技ニーズに応じた多様な運動部活動の設置、指導者の配置についても検討すべきである。

- ③ ジュニア選手の育成・強化等や県外からの優秀なジュニア選手の受入れについて、競技団体とともに、私立学校との連携・協力を推進すべきである。

- ④ 競技会場となる各市町村におけるジュニア選手の発掘・育成等は、競技力向上のみならず、国体に向けた県民の機運醸成においても重要である。

このため、競技団体が市町村と連携して行う、ジュニア選手の発掘・育成等の取組に対して、積極的に支援すべきである。

なお、国体終了後も、開催された競技種目が地域に定着し、競技力向上とともに地域への普及を図るため、市町村において引き続き当該競技の普及啓発やジュニア選手の発掘・育成等が行われるよう、継続して支援していくべきである。

【再掲：3(2)③】28 ページ

- ⑤ ジュニア選手の育成・強化において、選手の体づくりは、競技種目を問わず重要である。

このため、食事の管理やドーピング防止活動をはじめ、ドクターやトレーナー

等によるスポーツ医・科学の活用を推進すべきである。

- ⑥ 国体に向けたジュニア選手の育成・強化のために、競技団体等が行う合宿や大会等への参加に伴う、出欠席の取扱いについては、統一した対応を検討すべきである。

イ 成年選手の強化・確保等

- ① 成年選手の強化・確保等に当たっては、競技団体と連携して、競技引退後も本県に残り、指導者等として活動することを視野に入れ、県内外から優秀な選手の確保等に取り組むべきである。

なお、その際、雇用の場の確保が最も重要であることから、国体終了後も競技団体と連携し、スポーツ専門員制度や地方公共団体への雇用を活用して、優秀な選手の確保に取り組むとともに、県内の民間企業等に対して、雇用の場の確保に向けた働きかけを推進すべきである。

特に、スポーツ専門員制度については、国体の翌年に開催される東京オリンピック及び本県の競技力向上に資するため、制度の拡充を検討すべきである。

- ② 県内の民間企業が取り組む企業チームは、優秀な成年選手の強化・確保等のために重要であることから、企業チームの活動に対する支援を充実すべきである。

(2) 指導体制の充実・強化

- ① 指導体制の充実・強化に当たっては、その中心がジュニア選手の発掘・育成等と同様に、学校における運動部活動であることから、その充実・強化を図るため、教員採用試験におけるスポーツの実績による一部試験免除の特例を拡大するなど、教員採用試験の見直し等を行うべきである。

また、競技の特性などを踏まえた、教員の計画的な異動や配置等の対応を行うべきである。

さらに、特に指導力のある運動部活動指導者の意欲を高めるための方策を検討すべきである。

- ② 優秀な指導者の確保に当たっては、成年選手と同様に雇用の場の確保が最も重要であることから、国体終了後も競技団体と連携し、スポーツ専門員制度や地方公共団体への雇用を活用して、優秀な指導者の確保に取り組むとともに、県内の民間企業等に対して、雇用の場の確保に向けた働きかけを推進すべきである。

(3) 競技力向上のための施設・環境等の整備

ア 笠松運動公園における施設整備

- ① 笠松運動公園は、前回の国体開催の際に整備され、以後、様々な競技大会等が開催されるほか、今回の国体においても総合開・閉会式等が行われるなど、本県スポーツの拠点施設である。

このため、国体開催後も、同公園が本県スポーツの拠点であり続けるとともに、本県の競技力向上に寄与するため、競技団体の意見も踏まえ、主陸上競技場フィールドの改修や、国体選手強化のため練習等で利用する際の利用制限の緩和など、施設整備及び利用環境の見直しを図るべきである。

また、屋内水泳プール兼アイススケート場は、水泳競技とスケート競技の共用施設となっていることから、各競技種目が単独で通年の使用を可能とするための専用施設の整備を検討すべきである。

さらに、選手の強化合宿等で利用されている県体育協会会館は、築40年以上が経過し、老朽化が著しいことから、民間の力を最大限に活用し、合宿以外でも利用できる宿泊施設へ建替えを検討すべきである。

イ その他施設整備

(7) 競技施設

- ① 国体における各競技施設の整備に当たっては、大会開催までに整備するという前提に捉われることなく、競技団体等が一日も早く強化練習等で利用できるよう、速やかに整備を行うべきである。

また、大会開催にあわせて臨時的に整備し、大会終了後に撤去する仮設の競技施設については、大会後の利活用や競技団体の意向等を踏まえ、施設の常設化を検討すべきである。

特に、馬術競技場及びその周辺施設の改修に当たっては、関係機関と十分に協議の上、対応すべきである。

なお、各競技施設の整備においては、大会終了後の利活用を見据え、観客席や練習場等の付帯施設も含めた一体的な整備を行うべきである。

(1) 競技施設以外の施設

- ② 国体における各競技施設の整備だけではなく、競技団体等の意見を踏まえ、競技力向上のためのトレーニング施設や拠点施設についても積極的に整備等を行うとともに、施設の優先的利用をはじめとした利用環境の見直しを図るべきである。

また、老朽化した施設については、改修等を進めるとともに、併せて、県営野球場の在り方を検討すべきである。

ウ 環境等整備

- ① 近年、他の大会との重複や国体参加に対する意識の希薄化により、優秀な選手を国体に派遣しない現状が一部の競技で見受けられる。
このため、まず、競技団体や選手、指導者等に対して、国体が「国内最大・最高の総合スポーツ大会」であり、最も優先して参加すべき大会であるとの基本的な認識の徹底を図るべきである。
その上で、競技団体が行う選手強化事業等に要する経費については、主に競技団体に対して財政支援を行い、国体に出場する選手の強化に有効に活用されるべきである。
なお、財政支援に当たっては、競技団体及び選手の意向も踏まえ、支援の増額とともに、支援対象となる経費の拡大・見直しについても検討すべきである。
- ② 本県にある大学等と、より一層の連携・協力を図り、大学等有する研究者やトレーナーなどハード・ソフト両面の資源を活用し、競技力向上を図るべきである。
- ③ 雇用の場の確保や競技団体等への支援に係る財源など、民間企業からの支援が必要不可欠であることから、民間の力を最大限に活用した競技力向上に取り組むべきである。

(4) 組織の整備充実

- ① 本県の競技力向上の効果的かつ適切な対策を推進することを目的として、平成24年8月に茨城県競技力向上対策本部が設置されているが、前回の国体以降、公益財団法人茨城県体育協会が主体となって選手強化に取り組んできた経緯を踏まえ、競技団体、競技力向上対策本部及び県体育協会間の連携・強化を推進すべきである。
- ② 茨城県等が行う、各種の選手強化事業に係る事務手続等については、競技団体が選手強化に専念できるよう簡素・省略化を図るべきである。
- ③ 本県の競技力向上に資するため、競技団体と連携し、選手から出される様々な意見や要望等に対して直接的にサポートする体制を充実・強化すべきである。
- ④ 国体を契機として、本県の競技力向上を推進するための体制整備を検討すべきである。

(5) 障害者スポーツの推進

- ① 障害者スポーツの推進は、障害のある人が各競技を通じてスポーツの楽しさを経験するとともに、県民の障害及び障害のある人への理解を深め、障害のある人の社会参加を図る上で重要である。

このため、特別支援学校や障害者スポーツ団体等と連携し、指導者の育成などにより、競技人口の拡大を図るべきである。

- ② 特に、障害者スポーツを通じて、障害及び障害のある人に対する理解促進を図るため、障害のある人と障害のない人が共に参加できるスポーツイベント等の開催や、子どもたちが障害者スポーツを体験する機会を設けるなどの取組を推進すべきである。

- ③ 併せて、障害者スポーツの普及啓発に向けた取組も推進すべきである。

- ④ 障害のある人がスポーツに取り組みやすくなるよう、ハード・ソフト両面における環境の整備が重要である。

このため、全国障害者スポーツ大会における各競技施設のバリアフリー化や必要用具等の整備を推進すべきである。

さらに、市町村や障害者スポーツ団体等と連携し、県営・市町村施設における利活用の促進を図るとともに、特別支援学校でのスポーツ活動の体制強化、障害のある人に対する介助ボランティア等の確保等を図るべきである。

【再掲：1(4)④】 22 ページ

3 両大会等を通じた地域活性化に向けた取組

(1) ボランティア等の養成及び活用

- ① より多くの県民に両大会を支えていただき、全県を挙げた大会となるよう、観光マイスター制度を積極的に活用して、ボランティアの確保・養成を推進すべきである。

また、東京オリンピックをはじめ、今後、本県で開催されるスポーツイベント等にこうした経験や運営等のノウハウ、知見等をつなげていくため、ボランティアが引き続き活躍できる環境等の整備を検討すべきである。

(2) スポーツ文化の振興

- ① 本県には、サッカーJリーグをはじめとした「観るスポーツ」、豊かな自然環境等を生かした「するスポーツ」、そしてスポーツイベント等を誘致・支援する「支えるスポーツ」など、様々な参加スタイルが存在している。

こうしたスポーツがもたらす感動や体験等は大きな社会的・経済的価値を有しており、両大会の開催を契機として、スポーツを魅力ある資源として積極的に活用し、地域の活性化につなげていくことが重要である。

このため、プロスポーツ観戦やスポーツ大会などスポーツイベントの開催やスポーツ合宿・キャンプの誘致といったスポーツツーリズムを積極的に推進すべきである。

なお、こうした取組に当たっては、地域の活性化とともに、本県のイメージアップや競技施設の活用促進にもつながるよう、特定の競技やターゲット等を明確にするなど、戦略的に取り組むべきである。

【再掲：3(3)①】 29 ページ

- ② スポーツ振興を図るため、学校や地域等のアマチュアスポーツチームが、プロスポーツチームや企業チームと連携できる体制の構築を検討すべきである。

- ③ 国体終了後も、開催された競技種目が地域に定着し、競技力向上とともに地域への普及を図るため、市町村において引き続き当該競技の普及啓発やジュニア選手の発掘・育成等が行われるよう、継続して支援していくべきである。

【再掲：2(1)ア④】 23 ページ

- ④ 両大会の開催を契機として、県民誰もが心身の健康の保持・増進のため、それぞれの体力や年齢等に応じてスポーツに親しむことができるよう、環境等の整備を図るべきである。

その際、高齢者に関しては、介護予防を主な目的として取り組んでいる、シルバーリハビリ体操を活用すべきである。

- ⑤ 全県的にスポーツツーリズムを推進していくため、スポーツコミッションをはじめとした専門的組織の整備を検討すべきである。

(3) 観光をはじめとした産業の振興

- ① 両大会の開催を契機として、スポーツを魅力ある資源として積極的に活用し、地域の活性化につなげていくことが重要である。

このため、プロスポーツ観戦やスポーツ大会などスポーツイベントの開催やスポーツ合宿・キャンプの誘致といったスポーツツーリズムを積極的に推進すべきである。

【再掲：3(2)①】28 ページ

- ② スポーツツーリズムの推進に当たっては、宿泊施設の充実やおもてなしの向上など、受入体制の整備等を進めるとともに、以下の点に重点を置いた取組を推進していくべきである。

- ・スポーツイベント等と観光資源を組み合わせたルートの策定
- ・バスツアーによる旅行商品の造成

お わ り に

国民体育大会冬季大会の開催を来年1月に控え、また、「いきいき茨城ゆめ国体」及び「いきいき茨城ゆめ大会」の開催まで1年を切る中において、県民総参加の機運醸成や競技力向上、競技施設等の整備など、両大会の成功に向けて取り組むべき課題は山積している。

また、両大会を一過性のものにすることなく、それを契機として、その後の本県のスポーツ振興や地域活性化につなげていかなければならない。

こうした課題に対応するため、本委員会は2年6ヶ月という長期間にわたり、各委員や参考人の方々などからご意見等をいただきながら、精力的に議論し、ここに調査結果を取りまとめ、提言を行ったところである。

この間、県執行部には、競技施設の整備状況をはじめ、両大会の成功に向けた課題や競技力向上に向けた取組等について、広範囲かつ詳細な資料の提出や説明をいただき、ここに感謝申し上げます。

また、審査に当たっては、参考人として17の競技団体の方々やスポーツ専門員など数多くの方々をお招きし、それぞれの活動状況や競技力向上に向けた取組等について貴重なご説明やご意見をいただいた。

さらに、笠松運動公園をはじめ、4回にわたり県内調査を実施し、各施設において両大会の開催に向けた施設の整備状況についてご説明やご案内をいただいたところである。

あらためて、審査に御協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます次第である。

こうした多数の関係者の方々のご協力のもと、「両大会の成功等に向けた施策の基本方向」として、「両大会の成功に向けて」、「両大会後も見据えた競技力の向上等」及び「両大会等を通じた地域活性化に向けた取組」からなる提言を取りまとめたところである。

県執行部においては、両大会の成功をはじめ、前回の茨城国体以来45年ぶりとなる天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、また、両大会を契機としたその後のスポーツ振興・地域活性化に向けて、これらの提言内容や各委員から出された意見等について真摯に受け止め、総力をあげて取り組まれることを切に望むものである。

以上、申し添えて、本委員会の報告とする。

参 考 资 料

1 調査に当たった委員 (平成28年3月24日～平成30年11月14日)

委員長	海野	透	
副委員長	石井	邦一	
委員	加藤	明良	
委員	舘	静馬	(平成29年12月21日～)
委員	高橋	勝則	
委員	萩原	勇	(～平成30年3月23日)
委員	山岡	恒夫	(～平成30年3月16日)
委員	星田	弘司	
委員	田口	伸一	
委員	水柿	一俊	(平成30年3月23日～)
委員	白田	信夫	
委員	田山	東湖	
委員	島田	幸三	(平成30年3月23日～)
委員	下路	健次郎	
委員	江田	隆記	
委員	長谷川	修平	
委員	高崎	進	
委員	桜井	富夫	(～平成29年10月30日)

2 活動経過

(※団体名、所属名及び役職名は各委員会の開催時点による)

時 期		審 議 事 項 等
1	平成 28 年 6 月 20 日(月) 〔定例会中〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査方針，調査活動計画の決定 ○ 本県のスポーツ活動の現状 ○ 茨城国体・全国障害者スポーツ大会の概要 ○ 競技施設の整備等 ○ 競技力向上に向けた取り組み
2	7 月 12 日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考人意見聴取 「各競技団体における活動状況及び競技力向上に向けた取り組み」 ● 公益財団法人茨城県サッカー協会 <ul style="list-style-type: none"> ・専務理事 大和田 健 氏 ・理事（技術委員会委員長） 大内 啓行 氏 ● 茨城県軟式野球連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 宮下 護 氏 ・監督（筑波銀行） 船木 祐輔 氏 ● 茨城県ソフトボール協会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 大久保 進司 氏 ・技術委員会委員長（成年女子監督） 高橋 雄二 氏
3	8 月 18 日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考人意見聴取 「各競技団体等における活動状況及び競技力向上に向けた取り組み」 ● 一般財団法人茨城陸上競技協会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 潮田 茂 氏 ・強化委員長 鈴木 理弘 氏 ● 茨城県レスリング協会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 沼尻 久 氏 ・副会長 清水 敏治 氏 ● 茨城県馬術連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 野澤 一実 氏 ・強化部長 中島 信行 氏 ● 茨城ホッケー協会 <ul style="list-style-type: none"> ・強化部長 若井 隆純 氏 ・理事 菅原 健太 氏 ● 茨城県ラグビーフットボール協会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 小坪 洋一 氏 ● 土浦市教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・教育部長 服部 正彦 氏 ・スポーツ振興課長 星田 洋一 氏 ・スポーツ振興課国体準備室長 寺崎 敏彦 氏 ● ひたちなか市 <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活部長 須藤 雅由 氏 ・スポーツ振興課長 大和 敏幸 氏 ・スポーツ振興課副参事兼国体推進室長 川上 篤 氏 ● 株式会社日立製作所ビルシステムビジネスユニット <ul style="list-style-type: none"> ・総務本部 水戸総務部 部長代理 高橋 邦久 氏 ● 新日鐵住金株式会社 鹿島製鐵所 <ul style="list-style-type: none"> ・労働・購買部 労政人事室長 石田 晃康 氏

時 期		審 議 事 項 等
4	8月25日(木)	○ 参考人意見聴取 「各競技団体における活動状況及び競技力向上に向けた取組み」 ● 茨城県カヌー協会 ・理事長 岩間 信雄 氏 ・理事(強化部長) 五位渕 智 氏 ● 茨城県アマチュアゴルフ連盟 ・副会長 大輪 広明 氏
	9月2日(金)	○ 県内調査 笠松運動公園(屋内水泳プール兼アイススケート場, 主陸上競技場ほか)
5	9月29日(木) 〔定例会中〕	○ 参考人意見聴取 「各競技団体等における活動状況及び競技力向上に向けた取組み」 ● 茨城県ウエイトリフティング協会 ・副会長兼理事長 福田 太公 氏 ● 茨城県卓球連盟 ・理事長 小林 博史 氏 ・強化担当トップコーチ 澁谷 敏夫 氏 ● 茨城県水泳連盟 ・副理事長兼強化委員長 安藤 正宏 氏 ・常任理事兼飛込委員長 畑岡 寿 氏 ● 茨城県アイスホッケー連盟 ・理事長 吉澤 忠 氏 ・強化・普及委員 堀口 泰司 氏 ● 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 ・スポーツ推進部 スポーツ推進課長兼指導者育成課長 滝澤 幸孝 氏 ● 茨城県卓球連盟(障害者スポーツ関係) ・副会長兼審判部部長 芦間 恒夫 氏
6	11月28日(月)	○ 参考人意見聴取 「各競技団体における活動状況及び競技力向上に向けた取組み」 ● 茨城県バレーボール協会 ・理事長 諏訪 正美 氏 ・強化委員長 北嶋 宝三 氏 ● 一般財団法人茨城県剣道連盟 ・専務理事 小倉 培夫 氏 ・理事兼強化委員長 諏訪 文夫 氏 ● 茨城県スケート連盟 ・理事長 久野 篤 氏 ・フィギュア部長 鈴木 みさ子 氏 ○ 岩手国体及び全国障害者スポーツ大会の結果 ○ 「競技力向上等に関する提言書(案)」の検討
7	12月16日(金) 〔定例会中〕	○ 競技施設等の準備状況 ○ 競技力向上等に向けた課題, 対応(岩手国体及び全国障害者スポーツ大会結果の評価・分析等) ○ 「競技力向上等に関する提言書(案)」の決定, 提言書手交

時 期		審 議 事 項 等
8	平成 29 年 3 月 17 日(金) 〔定例会中〕	○ 競技施設等の準備状況 ○ 国体・障害者スポーツ大会の成功に向けた課題，対応 (1) 大会の普及啓発及び情報発信 (2) 本県の情報発信 (3) 県民運動の促進 (4) スポーツの振興・普及と人材の育成 (5) 円滑な開催運営に向けた環境の整備
9	5 月 30 日(火)	○ 参考人意見聴取 「スポーツ専門員の活動状況」茨城県競技力向上対策本部スポーツ専門員 ・中野 紘志 氏 (ボート) ・新村 穰 氏 (自転車) ・山田 優子 氏 (ライフル射撃) ・室谷 徹 氏 (アイスホッケー)
10	6 月 19 日(月) 〔定例会中〕	○ 競技施設等の準備状況 ○ 国体・障害者スポーツ大会を通じた地域振興策等 (1) いばらきの魅力発信とおもてなし活動の展開 (2) スポーツ文化の振興 (3) 障害者スポーツを通じた社会参加の促進 (4) 観光などの産業振興 ○ 参考人意見聴取 「国体を契機としたスポーツツーリズムの振興等」 ・公益社団法人さいたま観光国際協会 スポーツコミッション事業担当 副参与 金子 芳久 氏
11	7 月 18 日(火)	○ 意見・論点等の整理 ○ 中間取りまとめ骨子案の検討
12	9 月 27 日(水)	○ 中間報告書案の検討 (提言案の修正等)
13	10 月 23 日(月) 〔定例会中〕	○ 愛媛国体の結果 ○ 中間報告書案の決定
	10 月 30 日(月)	○ 第 3 回定例会 本会議中間報告
14	12 月 20 日(水) 〔定例会中〕	○ 競技施設等の準備状況 ○ 開催に向けた取り組み等 (1) 式典実施計画の策定 (2) 企業協賛の実績 (3) 大会運営及び情報支援ボランティアの募集状況 (4) ダンスコンテストの開催結果 ○ 全国障害者スポーツ大会の結果
15	平成 30 年 3 月 22 日(木) 〔定例会中〕	○ 競技施設の整備状況等 ○ 式典実施計画の決定 ○ 公式ポスターデザインの決定 ○ 中間報告への対応状況 (1) 両大会の成功に向けて (2) 両大会後も見据えた競技力の向上等 (3) 両大会等を通じた地域活性化に向けた取組
	5 月 9 日(水)	○ 県内調査 (県北地区) ・笠松運動公園 (屋内水泳プール兼アイススケート場，主陸上競技場ほか) ・日立市池の川さくらアリーナ及び市民運動公園野球場

時 期		審 議 事 項 等
16	6月14日(木) 〔定例会中〕	<p>○ 参考人意見聴取 「各競技団体における競技力向上に向けた取り組み、スポーツ専門員の活動内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一般財団法人茨城陸上競技協会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 潮田 茂 氏 ●茨城県バレーボール協会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 諏訪 正美 氏 ・強化指導普及委員長 北嶋 宝三 氏 ●一般財団法人茨城県剣道連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・副会長兼専務理事 小倉 培夫 氏 ・常任理事兼副専務理事兼強化委員長 諏訪 文夫 氏 ●茨城県アイスホッケー連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 吉澤 忠 氏 ・強化・普及委員 堀口 泰司 氏 ●茨城ホッケー協会 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドコーチ 若井 隆純 氏 ・理事 菅原 健太 氏 ●茨城県卓球連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 小林 博史 氏 ・強化部長 中川 清 氏 ●茨城県馬術連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 野澤 一実 氏 ・強化部長 中島 信行 氏 ●茨城県スケート連盟 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長 久野 篤 氏 ・フィギュア部長 鈴木 みさ子 氏 <p>○ 文化プログラムにおける「eスポーツ大会」の開催</p>
	7月2日(月)	<p>○ 県内調査（県南・県西・県央地区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J：COMスタジアム土浦 ・県営ライフル射撃場 ・東町運動公園新体育館 ・水戸市総合運動公園市民球場及び体育館
	7月30日(月)	<p>○ 県内調査（鹿行地区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立カシマサッカースタジアム ・潮来ボートコース及び潮来市立ボートセンターあめんぼ
17	9月26日(水) 〔定例会中〕	<p>○ 開催に向けた取り組み等</p> <p>○ 意見・論点等の整理</p> <p>○ 最終取りまとめ骨子案の検討</p>
	9月28日(金) ～30日(日)	<p>○ 県外調査〔福井しあわせ元気国体（第73回国民体育大会）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合開会式（福井県営陸上競技場）
18	10月23日(火)	<p>○ 福井国体及び全国障害者スポーツ大会の結果</p> <p>○ 最終報告書案の検討（提言案の修正等）</p>
19	11月12日(月) 〔定例会中〕	<p>○ 最終報告書案の決定</p>
	11月14日(水)	<p>○ 第4回定例会 本会議最終報告</p>

3 市町村別競技種目及び競技会場一覧

(1) いきいき茨城ゆめ国体（第74回国民体育大会）

市町村	実施競技※	競技名	種別	会場
水戸市	正式競技	バスケットボール	成年女子	青柳公園市民体育館
			少年女子	総合運動公園体育館
		レスリング	全種別	東町運動公園新体育館
		軟式野球	成年男子	総合運動公園市民球場
		フェンシング	全種別	東町運動公園新体育館
		弓道	全種別	堀原運動公園武道館弓道場
	特別競技	ラグビーフットボール	全種別	水戸市立サッカー・ラグビー場
				ケーズデンキスタジアム水戸
特別競技	高等学校野球(硬式)	—	総合運動公園市民球場	
デモスポ	ドッジボール	—	東町運動公園新体育館	
日立市	正式競技	体操	競技	全種別
			新体操	少年女子
		バスケットボール	成年男子	日立市池の川さくらアリーナ
			少年男子	久慈サンピア日立スポーツセンター
	卓球	全種別	日立市池の川さくらアリーナ	
		軟式野球	成年男子	日立市市民運動公園野球場
デモスポ	パンポン	—	日立市池の川さくらアリーナ	
土浦市	正式競技	水泳(水球)	少年男子	県立土浦第二高等学校プール
			女子	
		軟式野球	成年男子	J:COM スタジアム土浦
	相撲	全種別	霞ヶ浦文化体育会館	
特別競技	高等学校野球(軟式)	—	J:COM スタジアム土浦	
古河市	公開競技	綱引	全種別	古河市中心運動公園総合体育館
	デモスポ	少林寺拳法	—	古河市中心運動公園総合体育館
石岡市	正式競技	バドミントン	全種別	石岡運動公園体育館
	デモスポ	オリエンテーリング	—	八郷総合運動公園
		スポーツ吹矢	—	石岡運動公園体育館
		トレイルラン	—	朝日里山学校周辺山岳コース
		ハンググライダー・ パラグライダー	—	ハンググライダー・パラグライダーズスクール nasa
			—	エアパーク COO パラグライダーズスクール
リレーカーニバル	—	石岡運動公園		
結城市	正式競技	バレーボール	少年女子	かなくぼ総合体育館
	デモスポ	パークゴルフ	—	紬の里結城パークゴルフ場
龍ヶ崎市	正式競技	柔道	全種別	龍ヶ崎市総合体育館たつのこアリーナ
下妻市	正式競技	ソフトボール	少年男子	砂沼広域公園野球場
				柳原球場
			少年女子	千代川運動公園野球場
	千代川中学校グラウンド			
デモスポ	Eボート	—	鬼怒川大形橋上流左岸	
常総市	正式競技	ハンドボール	少年男子	水海道総合体育館
			少年女子	県立水海道第二高等学校体育館

市町村	実施競技※	競技名	種別	会 場
常陸太田市	正式競技	ソフトボール	成年男子	山吹運動公園運動広場
			成年女子	山吹運動公園野球場
高 萩 市	正式競技	軟式野球	成年男子	高萩市民球場
		ウェイトリフティング	全種別	高萩市文化会館
北茨城市	正式競技	ソフトテニス	全種別	磯原地区公園テニスコート
笠 間 市	正式競技	軟式野球	成年男子	笠間市総合運動公園市民球場
		クレー射撃	全種別	県狩猟者研修センター
		ゴルフ	少年男子 女子	穴戸ヒルズカントリークラブ
	デモスポ	合気道	—	笠間市民体育館
取 手 市	正式競技	自転車(トラック)	全種別	取手競輪場
		ボウリング	全種別	フジ取手ボウル
	公開競技	武術太極拳	全種別	取手グリーンスポーツセンター第1体育室
		ダンススポーツ	—	取手グリーンスポーツセンター第1体育室
デモスポ	エアロビック	—	取手グリーンスポーツセンター第1体育室	
牛 久 市	正式競技	軟式野球	成年男子	牛久運動公園野球場
		空手道	全種別	牛久運動公園体育館
つくば市	正式競技	自転車(ロード)	全種別	つくば市特設ロードレースコース
		アーチェリー	全種別	茎崎運動公園多目的広場
	公開競技	パワーリフティング	全種別	つくばカピオ
		スポーツ鬼ごっこ	—	つくばカピオ
デモスポ	ダンス&パフォーマンス	—	ノバホール	
ひたちなか市	正式競技	陸上競技	全種別	笠松運動公園陸上競技場
		水泳(競泳・飛込・シンクロ ナイズドスイミング)	全種別	笠松運動公園屋内水泳プール
		サッカー	女子	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場 ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場
		バレーボール	成年男子	ひたちなか市総合運動公園総合体育館
			成年女子	
少年男子	松戸体育館 県立勝田工業高等学校体育館			
鹿 嶋 市	正式競技	サッカー	少年男子	県立カシマサッカースタジアム
			成年男子	ト伝の郷運動公園多目的球技場
			少年男子	高松緑地多目的球技場 新浜緑地多目的球技場
			少年男子	北海浜多目的球技場
潮 来 市	正式競技	水泳(オープンウォーター スイミング)	男子	常陸利根川特設会場
		女子		
		ボート	全種別	潮来市立ボートセンター
	トライアスロン	全種別	常陸利根川特設会場	
守 谷 市	正式競技	ハンドボール	成年女子	常総運動公園体育館
常陸大宮市	正式競技	なぎなた	全種別	西部総合公園体育館
那 珂 市	正式競技	馬術	全種別	県立水戸農業高等学校特設馬術競技場
	デモスポ	3B体操	—	那珂総合公園アリーナ

市町村	実施競技※	競技名	種別	会場
筑西市	正式競技	剣道	全種別	下館総合体育館
坂東市	正式競技	ハンドボール	成年男子	坂東市総合体育館
			成年女子	県立岩井高等学校体育館
稲敷市	正式競技	体操(トランポリン)	全種別	江戸崎総合運動公園体育館
	デモスポ	いきいきトランポリン	—	江戸崎総合運動公園体育館
かずみがうら市	デモスポ	ふれあいグラウンド・ゴルフ	—	あじさい館コミュニティ広場
			—	多目的運動広場多目的グラウンド
		ペタンク	—	わかぐり運動公園多目的グラウンド
桜川市	正式競技	ライフル射撃(CP以外)	全種別	県営ライフル射撃場
				桜川市立岩瀬体育館ラスカ
神栖市	正式競技	テニス	全種別	神栖海浜庭球場
		カヌー(スプリント)	全種別	神之池特設カヌー競技場
	公開競技	グラウンド・ゴルフ	全種別	神栖中央公園
行方市	公開競技	ゲートボール	全種別	行方市北浦運動場北浦第1グラウンド
	デモスポ	ビーチハンドボール	—	水郷筑波国定公園天王崎公園砂浜特設コート
銚田市	正式競技	スポーツ	リード	銚田総合公園特設リード競技場
		クライミング	ボルダリング	銚田総合公園体育館特設ボルダリング競技場
つくばみらい市	デモスポ	アームレスリング	—	きらくやまふれあいの丘世代ふれあいの館
		ターゲットバードゴルフ	—	つくばみらい市総合運動公園多目的広場
		バウンドテニス	—	つくばみらい市総合運動公園体育館
小美玉市	デモスポ	少年少女サッカー	—	玉里運動公園
				希望ヶ丘公園
茨城町	正式競技	ライフル射撃(CP)	成年男子	県警察学校射撃場
大洗町	正式競技	ゴルフ	成年男子	大洗ゴルフ倶楽部
		バレーボール(ビーチバレーボール)	男子 女子	大洗サンビーチ特設会場
	デモスポ	レク・クロッカー	—	大洗町総合運動公園陸上競技場
城里町	正式競技	ボクシング	全種別	県立水戸桜ノ牧高等学校常北校体育館
	デモスポ	ユニカール	—	城里町常北公民館体育室
東海村	正式競技	ホッケー	全種別	県立東海高等学校多目的グラウンド
				阿漕ヶ浦公園ホッケー場
大子町	正式競技	カヌー(スラローム・ワイルドウォーター)	全種別	久慈川特設カヌー競技場
美浦村	デモスポ	ディスクゴルフ	—	光と風の丘公園
阿見町	正式競技	セーリング	全種別	阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場
河内町	デモスポ	ソフトバレーボール	—	河内町農業者トレーニングセンター
八千代町	デモスポ	ビーチボールバレー	—	八千代町総合体育館
五霞町	デモスポ	ウォーキング	—	歴史探訪コース
境町	デモスポ	少年軟式野球	—	境町さしま環境センター野球場
利根町	デモスポ	ウォーキング	—	とねヘルスロードコース

※実施競技

- ・正式競技・・・都道府県対抗で実施され、得点対象(天皇杯・皇后杯対象競技)となる競技
- ・公開競技・・・都道府県代表の参加により中央競技団体主導で開催する競技。(得点対象外)
- ・特別競技・・・毎年開催される高等学校野球。(得点対象外)
- ・デモンストラーションスポーツ(デモスポ)
 - ・・・子どもからお年寄りまで県内在住者を対象として幅広く参加できるスポーツ。(得点対象外)

(2) いきいき茨城ゆめ大会（第19回全国障害者スポーツ大会）

市町村	実施競技	競技名	障害区分※	会 場
水戸市	正式(個人)	フライングディスク	身・知	ケーズデンキスタジアム水戸
	正式(団体)	バスケットボール	知	東町運動公園新体育館
	オープン	車いすダンス	身	青柳公園市民体育館
日立市	正式(個人)	卓球・サウンドテーブルテニス	身・知・精 (サウンドテーブルテニスは身)	日立市池の川さくらアリーナ
結城市	正式(団体)	バレーボール	知	かなくぼ総合体育館
龍ヶ崎市	オープン	スポーツ吹矢	身・知・精	龍ヶ崎市総合体育館 たつのこアリーナ
常陸太田市	正式(団体)	ソフトボール	知	山吹運動公園野球場
		グラウンドソフトボール	身	里美運動公園多目的スポーツ広場
		フットベースボール	知	山吹運動公園運動広場
取手市	正式(個人)	ボウリング	知	フジ取手ボウル
	オープン	卓球バレー	身・知・精	取手グリーンスポーツセンター
牛久市	オープン	ブラインドテニス	身	牛久運動公園体育館
つくば市	正式(個人)	アーチェリー	身	荃崎運動公園多目的広場
	正式(団体)	車椅子バスケットボール	身	つくばカピオ
	オープン	ハンドアーチェリー	身・知	東光台体育館
ひたちなか市	正式(個人)	陸上競技	身・知	笠松運動公園陸上競技場
	正式(個人)	水泳	身・知	笠松運動公園屋内水泳プール
	正式(団体)	サッカー	知	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場及びスポーツ広場
		バレーボール	身 精	ひたちなか市総合運動公園総合体育館 松戸体育館
神栖市	オープン	グラウンド・ゴルフ	身・知・精	神栖中央公園

※障害区分

- ・身・・・身体障害者が出場できる競技
- ・知・・・知的障害者が出場できる競技
- ・精・・・精神障害者が出場できる競技

4 競技施設の整備状況等 (平成30年2月末現在)

(1) 整備状況総括表

区 分 \ 項 目		施設数		事業総額 (百万円)		進捗率 (%)		備考
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	
常設	県	18 (11)	18 (11)	3,888	3,883	100.0	99.9	
	市町村 民間 一部組合	44 (33)	44 (33)	26,233	26,238	97.5	94.8	
	小計	62 (44)	62 (44)	30,121	30,121	97.8	95.5	
仮設	県	1 (1)	1 (1)	699	699	13.9	13.9	H30・ H31 に仮設
	市町村	11 (11)	11 (11)	1,301	1,333	56.3	42.8	
	小計	12 (12)	12 (12)	2,000	2,032	41.5	32.8	
合 計		74 (56)	74 (56)	32,121	32,153	94.3	91.5	

- ※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。
- ※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。
- ※3 「施設数」欄の()は、国体開催に必要な改修等の工事を行う施設数。(通常の維持管理を除く。)
- ※4 進捗率は起工ベースである。
- ※5 前回調査時点は平成29年11月末現在

(2) 施設別整備状況一覧

常設 (その1)

No.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	主な 整備内容	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
1	茨城県	笠松運動公園陸上競技場 (陸上競技)	トラック改修等	2,187	100.0	H27~H29 (H30.3)
2	茨城県	笠松運動公園屋内水泳プール (水泳(競泳・飛込・シンクロナイズドスイミング))	大型映像装置改修等	440	100.0	H28~H29 (H30.3)
[茨城県 笠松運動公園体育館 空調整備・トイレ改修 事業総額 499 (百万円) 整備年度 H28~H29 茨城県 笠松運動公園内 広場整備・屋外トイレ改修 事業総額 558 (百万円) 整備年度 H27~H29]						
3	茨城県	堀原運動公園武道館弓道場(弓道 近的)	防矢ネット兼遮光スクリーン設置	234	100.0	H27~H28 (H29.3)
4	茨城県	堀原運動公園武道館弓道場(弓道 遠的)	射場増築等	278	100.0	H27~H28 (H29.3)
5	茨城県	県営ライフル射撃場(ライフル射撃)	射撃場改築	357	100.0	H27~H28 (H29.3)
6	茨城県	茨城県狩猟者研修センター射撃場(クレー射撃)	トラップ競技面整地等	36	100.0	H28~H29 (H30.3)
7	茨城県	茨城県立水海道第二高等学校体育館(ハンドボール)	照明設備改修	14	100.0	H27 (H28.3)
8	茨城県	茨城県立岩井高等学校体育館(ハンドボール)	アリーナ拡張等	109	100.0	H27~H29 (H30.2)
9	茨城県	茨城県立勝田工業高等学校体育館(バレーボール)	照明設備改修等	23	100.0	H27・29 (H29.8)

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。ただし、笠松運動公園体育館及び同公園内は、参考として記載する。

※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。

常設（その2）

No.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	主な 整備内容	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
10	茨城県	茨城県立土浦第二高等学校プール（水泳（水球））	プールの嵩上げ	82	100.0	H28～H29 (H30.2)
〔 茨城県 土浦第二高等学校 プール諸室改修等 事業総額 29（百万円） 整備年度 H29 〕						
11	茨城県	茨城県立東海高等学校多目的グラウンド（ホッケー）	人工芝張替等	128	100.0	H29～H30 (H30.6)
12	茨城県	取手競輪場（自転車）	—	—	—	—
13	茨城県	県立カシマサッカースタジアム（サッカー）	—	—	—	—
14	茨城県	霞ヶ浦文化体育会館（相撲）	—	—	—	—
15	茨城県	砂沼広域公園野球場（ソフトボール）	—	—	—	—
16	茨城県	新浜緑地多目的球技場（サッカー）	—	—	—	—
17	茨城県	県警察学校射撃場（ライフル射撃 CP）	—	—	—	—
〔 茨城県 警察学校 射撃場屋根改修，入口架台撤去等 事業総額 21（百万円） 整備年度 H29 〕						
18	茨城県	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校体育館（ボクシング）	—	—	—	—
19	水戸市	東町運動公園新体育館（フェンシング，レスリング）	体育館建替	9,950	96.0	H26～H30 (H30.12)
20	水戸市	水戸市総合運動公園市民球場（軟式野球，高等学校野球）	外野拡張等	1,629	100.0	H27～H30 (H30.6)
21	水戸市	水戸市総合運動公園体育館（バスケットボール）	床面改修等	433	100.0	H27～H28 (H28.12)

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。ただし，土浦第二高等学校プール諸室及び県警察学校射撃場屋根改修等は，参考として記載する。

※2 設計未了の施設があるため，事業総額は今後変動する。

※3 欄に「—」が記載してある施設においては，改修の予定はない。

常設（その3）

No.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	主な 整備内容	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
22	水戸市	水戸市青柳公園市民体育館（バスケットボール）	空調整備	304	100.0	H27, H29 (H30.3)
23	水戸市	ケーズデンキスタジアム水戸（ラグビーフットボール）	芝生張替	159	100.0	H26～H27 (H27.5)
24	水戸市	水戸市立サッカー・ラグビー場（ラグビーフットボール）	人工芝張替	186	100.0	H28 (H29.2)
25	日立市	日立市池の川さくらアリーナ（体操（競技, 新体操）, 卓球, バスケットボール）	体育館建替	5,868	100.0	H25～H28 (H28.12)
26	日立市	日立市市民運動公園野球場（軟式野球）	フェンス ラバー改修	8	4.9	H30 (H31.9)
27	土浦市	J:COMスタジアム土浦（軟式野球, 高等学校野球）	照明設備新設等	2,137	100.0	H27～H29 (H29.6)
28	結城市	かなくぼ総合体育館（バレーボール）	床面研磨	9	0.0	H30 (H31.3)
29	下妻市	柳原球場（ソフトボール）	防球ネット 金網フェンス改修等	32	96.3	H28～H31 (H31.9)
30	下妻市	千代川運動公園野球場（ソフトボール）	防球ネット 改修等	18	93.2	H29～H31 (H31.9)
31	常総市	水海道総合体育館（ハンドボール）	床面研磨	6	100.0	H29 (H30.3)

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。

※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。

※3 ソフトボールは、マウンドの撤去を大会前に実施する。

常設（その4）

NO.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	主な 整備内容	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
32	常陸太田市	山吹運動公園運動広場 (ソフトボール)	グラウンド 整地	23	95.1	H28～H31 (H31.9)
33	常陸太田市	山吹運動公園野球場 (ソフトボール)	グラウンド 整地	16	94.5	H28～H31 (H31.9)
34	常陸太田市	白羽スポーツ広場多目的 スポーツ広場 (ソフトボール)	グラウンド 整地	44	100.0	H29 (H30.3)
35	高萩市	高萩市民球場 (軟式野球)	グラウンド 改修等	453	100.0	H28 (H29.3)
36	北茨城市	磯原地区公園テニスコート (ソフトテニス)	テニスコート 新築等	1,406	100.0	H26～H30 (H30.6)
37	笠間市	笠間市総合公園市民球場 (軟式野球)	電光掲示板 改修	174	100.0	H28～H29 (H30.2)
38	牛久市	牛久運動公園体育館（空 手道）	武道場増築	721	100.0	H28～H30 (H31.3)
39	牛久市	牛久運動公園野球場 (軟式野球)	スタンド改 修	6	100.0	H27 (H28.3)
40	ひたちなか市	ひたちなか市総合運動公 園陸上競技場（サッカ ー）	天然芝張替	99	100.0	H28 (H29.3)
41	ひたちなか市	ひたちなか市総合運動公 園総合体育館（バレー ボール）	床面研磨	14	100.0	H29 (H30.2)

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。

※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。

※3 ソフトボールは、マウンドの撤去を大会前に実施する。

常設（その5）

No.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	主な 整備内容	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
42	ひたちなか市	松戸体育館 (バレーボール)	床面研磨等	134	100.0	H28～H29 (H30.1)
43	鹿嶋市	高松緑地多目的球技場 (サッカー)	人工芝新設	215	100.0	H29～H30 (H30.10)
44	鹿嶋市	北海浜多目的球技場 (サッカー)	天然芝新設	141	100.0	H28 (H29.3)
45	鹿嶋市	ト伝の郷運動公園多目的 球技場(サッカー)	人工芝張替	593	100.0	H29 (H30.3)
46	常陸大宮市	西部総合公園体育館 (なぎなた)	床面研磨	20	0.0	H31 (H31.6)
47	筑西市	下館総合体育館(剣道)	ブラインド 改修等	13	100.0	H28～H29 (H30.3)
48	坂東市	坂東市総合体育館 (ハンドボール)	床面改修等	602	100.0	H28 (H29.2)
49	神栖市	神栖海浜庭球場 (テニス)	コート改修 照明設備改 修	338	35.2	H29～H30 (H31.3)
50	東海村	阿漕ヶ浦公園ホッケー場 (ホッケー)	グラウンド 改修(人工 芝化)	357	100.0	H28 (H29.3)
51	一部 事務組合	常総運動公園体育館 (ハンドボール)	遮光 カーテン 取付等	125	100.0	H29 (H30.3)

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。

※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。

常設（その6）

NO.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	主な 整備内容	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
52	日立市	久慈サンピア日立スポーツセンター（バスケットボール）	—	—	—	—
53	石岡市	石岡運動公園体育館（バトミントン）	—	—	—	—
54	龍ヶ崎市	龍ヶ崎市総合体育館たつのこアリーナ（柔道）	—	—	—	—
55	下妻市	千代川中学校グラウンド（ソフトボール）	—	—	—	—
56	高萩市	高萩市文化会館（ウエイトリフティング）	—	—	—	—
57	ひたちなか市	ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場（サッカー）	—	—	—	—
58	稲敷市	江戸崎総合運動公園体育館（体操（トランポリン））	—	—	—	—
59	桜川市	桜川市立岩瀬体育館ラスカ（ライフル射撃 BR・BP）	—	—	—	—
60	民間	宍戸ヒルズカントリークラブ（ゴルフ）	—	—	—	—
61	民間	フジ取手ボウル（ボウリング）	—	—	—	—
62	民間	大洗ゴルフ倶楽部（ゴルフ）	—	—	—	—

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。

※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。

※3 欄に「—」が記載してある施設においては、改修の予定はない。

仮設

NO.	施設 所管機関	競技会場 (競技名)	事業総額 (百万円)	進捗率 (%)	整備年度 (完成年月)
63	茨城県	茨城県立水戸農業高等学校特設馬術競技場(馬術)	699	13.9	H28～H31 (H31.9)
64	つくば市	荃崎運動公園多目的広場 (アーチェリー)	35	0.0	H30・H31 (H31.9)
65	つくば市	つくば市特設ロードレースコース(自転車)	23	0.0	H30・H31 (H31.9)
66	潮来市	潮来市特設オープンウォータースイミング会場(水泳(オープンウォータースイミング))	10	0.0	H31 (H31.9)
67	潮来市	潮来市特設トライアスロン会場 (トライアスロン)	27	0.0	H30・H31 (H31.9)
68	潮来市	潮来ボートコース (ボート)	103	7.4	H30・H31 (H31.9)
69	神栖市	神之池特設カヌー競技場 (カヌー)	120	100.0	H29～H31 (H31.9)
70	鉾田市	鉾田総合公園特設リード競技場(スポーツクライミング(リード))	81	0.0	H30～H31 (H31.9)
71	鉾田市	鉾田総合公園体育館特設ボルダリング競技場(スポーツクライミング(ボルダリング))	22	8.9	H29～H31 (H31.9)
72	大洗町	大洗サンビーチ特設会場(バレーボール(ビーチバレーボール))	10	81.2	H30～H31 (H31.9)
73	大子町	久慈川特設カヌー競技場 (カヌー)	67	62.9	H27～H31 (H31.9)
74	阿見町	阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場 (セーリング)	803	69.6	H28～H31 (H31.9)

※1 競技施設整備計画【第四次】に基づくもの。

※2 設計未了の施設があるため、事業総額は今後変動する。

5 中間報告への対応状況 (平成30年3月22日現在)

1 両大会の成功に向けて

(1) 県民総参加の機運醸成

提言項目	現在の取組状況、今後の予定等
<p>① ○県民総参加に向けた更なる機運醸成及び広報活動の推進</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市町村や競技団体、協賛企業等と連携の上、各種メディアを活用し、広報宣伝活動を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・各地域でのPR活動 ・紙媒体（両大会リーフレット、広報紙「そして未来へ」（年3回発行、各40,000部）等） ・ホームページ、SNS、インターネット動画、新聞、ラジオ（ほか） ●県民が一体となって国体・大会を盛り上げられるよう県民運動を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・農業高等学校等での花苗の育成及び全市町村での花の育成並びに会場、沿道への飾花 ・国体・大会の運営ボランティアの募集 <ul style="list-style-type: none"> 県内2,500カ所配付：リーフレット60,000部、ポスター5,000部 応募状況：延べ2,136名（平成30年2月末現在） ・応援ボスターコンクルーの実施 <ul style="list-style-type: none"> 県内小中学校及び特別支援学校（応募数3,740点 入賞：44点） 県庁舎2階、レイクビュー水戸、各市町村にて展示 ・募金・企業協賛 ・イメージソング・ダンスの普及啓発活動 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き関係機関等と連携した広報活動に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> 〔第74回国民体育大会推進事業（広報宣伝活動関連）〕（H30予算案：24,475千円） ●各種メディアを活用した広報宣伝活動 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの県民が参加できるよう引き続き県民運動を行っていきます。 ・県内各地域での運営ボランティア研修会の実施（20回程度） ・開催1年前クリーンアップ運動の実施（平成30年8月4日予定） ・各市町村でのクリーンアップ運動の実施（各競技会場を中心とした清掃活動） ・近隣小中学生による都道府県応援団の結成 ・応援手作りのぼり旗の作成 ・花いっぱい運動の継続（花の試行栽培：全市町村） <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会議や県内5か所で開催した説明会において、全44市町村に対し炬火イベントの基本方針を説明するとともに、炬火リレーを含むイベントの積極的な実施を依頼しました。 ・市町村連絡協議会 平成29年5月15日（市町村会館） ・大会旗・炬火イベント説明会 <ul style="list-style-type: none"> 平成29年8月28日（常陸太田合同庁舎）、29日（土浦合同庁舎）、30日（水戸合同庁舎）、31日（筑西合同庁舎）、9月1日（鉾田合同庁舎）
<p>○炬火・集火イベントの実施に向けた取組</p>	

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p>	<p>○県民が各競技種目を身近に感じ、理解を深めるための取組</p> <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●炬火イベント等で使用する炬火受け皿及び炬火トーチを制作し、全市町村に配付します。 〔第74回国民体育大会推進事業（炬火トーチ等制作分）〕（H30 予算案 17,722 千円） ●今後も引き続き、市町村に対し、炬火リレーを含む炬火イベントの積極的な実施の働きかけを行います。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●広報紙等で両大会の実施競技の有力選手等を紹介するとともに、競技の魅力を伝えるパンフレットを作成し、広報宣伝活動に活用しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙「そして未来へ」※再掲 内 容：本県出身の有名アスリートと中学生選手の対談、両大会に向けての有力選手の意気込み等を掲載 配布先：市町村、スポーツ施設、小・中学、高校、特別支援学校、専修学校、大学 等 ・「国体競技ガイドブック」 内 容：国体競技のルール、見どころ等を紹介 配布先：市町村等、スポーツ施設、商業施設等のほか、イベント等で配布 ●会場地市町村に対し、情報交換会などを通じ、スポーツを活用した全国の活性化事例を紹介してまいります。 ・競技会場運営研修会の開催・・・会場地市町村の情報共有・交換などを目的に全体会議、ブロック会議を開催 ●競技団体と市町村が連携して市民への普及PR、選手の発掘・育成に取り組み事業を実施しています。 〔元氣いばらき選手育成強化事業（会場地選手強化支援事業）〕（H29 予算：6,000 千円） (1) 対象事業 競技団体と競技開催市町村が行う競技体験、PR、強化練習等の事業 (2) 補助率 10/10（上限300千円） (3) 実績 実施競技数：26 競技 実施回数：延べ94回 実施市町村：26 市町村 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き広報紙の発行による広報宣伝活動を行うとともに、イベント等において県民に競技を体験してもらおう機会を提供し、両大会への理解促進を図ります。 〔第74回国民体育大会推進事業（広報宣伝活動関連）〕※再掲（H30 予算案：24,475 千円） <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の発行 ・広報イベントの開催、市町村等が行うイベントへの参加 ●国体開催後の競技定着・スポーツ振興を図る市町村の取組を促進してまいります。 〔第74回国民体育大会推進事業（地域活性化支援事業費）〕（H30 予算案：5,000 千円） <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における国体後の競技定着・スポーツ振興を図るモデルとなる取組に対し支援
<p>② その他以下の取組 ○学校行事や市町村のイベントなどを活用した、県内外におけるPR活動の実施</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市町村や競技団体、協賛企業等と連携の上、イベント等での広報宣伝活動を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・各地域でのPR活動（※県実行委員会が主催又は参加したもの） 143回（H29.4月～H30.2月末） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き関係機関等と連携し、イベント等での広報宣伝活動に取り組みます。 〔第74回国民体育大会推進事業（広報宣伝活動関連）〕※再掲（H30 予算案：24,475 千円） <ul style="list-style-type: none"> ・県内外におけるイベントでの広報宣伝活動

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>○公共交通機関におけるラッピング車両の実施</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県内交通事業者と連携し、ラッピング車両の走行によるPRを実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ラッピングバス 全8台（関東鉄道(株)、茨城交通(株)、日立電鉄(株)） ・ラッピング列車 全1両（関東鉄道常総線） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県内の交通事業者に働きかけ、ラッピング車両数の増に努めます。
<p>○インターネットによる電子広告やSNSの積極的な活用</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 両大会ホームページを設置するとともに、イベントや行事についてツイッター等で随時情報発信を行っています。 <ul style="list-style-type: none"> ・両大会ホームページビュー数 60,756件/月（H28年度比 +60.0%） ・ツイッター フォロワー数 1,833人 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続きホームページ等での情報発信を行うとともに、学生ボランティアの活用等により、インターネット上での情報発信の機会を増やしていきます。 <p>〔第74回国民体育大会推進事業（広報宣伝活動関連）〕※再掲（H30予算案：24,475千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外におけるイベントでの広報宣伝活動
<p>○図書館の活用</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県立図書館では、館内に国体開催の啓発ポスターの貼付等を行っています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、広報活動の場として、県立図書館を提供していくとともに、市町村立図書館にも協力を呼びかけていきます。 <ul style="list-style-type: none"> 県内図書館数：64館（県立：1館、市町村立：63館）
<p>○シルバリーハビリ体操を通じた取組</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シルバリーハビリ体操教室等を活用した広報について、場所や手段等を関係者と調整しております。 <p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバリーハビリ体操教室開催数 40,864教室（平成28年度実績） ・シルバリーハビリ体操指導士フォローアップ研修会 1,759名参加（県内5地域開催、平成28年度実績） ・シルバリーハビリ体操普及講習会 1,153名参加（県内6地域開催、平成28年度実績） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 茨城県シルバリーハビリ体操指導士会と協働し、県内市町村で開催されている体操教室や、県シルバリーハビリ体操事業等でパンフレット配布等の広報活動を行ってまいります。

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>○「つくば霞ヶ浦りんりんロード」と連携した取組</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サイクリングイベントにおいて、国体等のPRを行いました。 <ul style="list-style-type: none"> ・イベント名称：サイクリングイベント「りんりんフェスタ～つくば霞ヶ浦サイクリング～」 ・開催日：平成29年10月14日 ・会場：かすみがうら市歩崎公園外 ・来場者：約1,500人 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後は、沿線地域で開催される各種サイクリングイベント等において、PRを行ってまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両大会に係る広報ノベルティを作成、配布することで、両大会の開催認知度向上及び機運醸成を図っています。 <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度に製作した広報ノベルティ8種類（ピンバッジ、ボールペン等） ・用途 イベントや会議での配布、キャンペーンの景品等 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続きイベントやキャンペーン等で広報ノベルティを配布し、開催認知度向上及び機運醸成を図ってまいります。
○両大会に係るノベルティグッズの活用	

(2) 本県の魅力発信

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>① イベントや競技会場等における「いばらきの魅力」の積極的な発信</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両大会に参加される方に配布する参加章等について、工芸品等を活用しながら製作を進めています。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加章、記念章の製作 ・全国障害者スポーツ大会メダルの製作 ●おもてなし広場（ラッキーカー広場）の設置 <p>両大会において、全国から来県される選手団や役員、招待者、観覧者等をおもてなしの心で歓迎し、本県民との触れ合いの場とする。会場から来県される魅力、郷土蒸城を全国に発信する場となるよう特色ある広場の設置を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9回広報・県民運動専門委員会においてラッキーカー広場基本計画策定 ●県内外の観光キャンペーン等においてラッキーカー広場（結城紬、笠間焼、真壁石燈籠）については産地組合等と連携し、新商品開発や販売促進の支援、産地プロモーション活動を実施しています。 ●本県産農産水産物のトップブランド品を育成し、これを牽引役としてレギュラー品を含めた全体の底上げを図るとともに、消費者から広く認知されるよう都内百貨店や県内飲食店等でのフェアの開催や、メディアやウェブ等を活用した情報発信を行っています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加章等について、両大会本番での配布に向けて、製作を進めてまいります。 <p>〔第74回国民体育大会推進事業（参加章製作関連）〕（H30 予算案：14,706千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加章等の製作

現在の取組状況、今後の予定等	
提言項目	<p>●関係機関と連携したおもてなし広場（ラッキーカー広場）設置に向けての準備を進めてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売店等設置運営要項策定 ・おもてなし（ラッキーカー広場）実施計画の策定等 <p>●引き続き、県内をはじめ首都圏や就航先の競技会場等における観光PR・物産販売を検討しますとともに、伝統的工芸品については産地組合等と連携した先駆的な取組を支援してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成支援、メディアを活用した情報発信、観光キャンペーンの実施等 ・観光に係る情報発信、観光キャンペーンの実施、旅行商品造成支援、地域イベントへの支援等 ・販路開拓アイデアコンペの実施や他産地との連携による新商品開発、産地プロモーションの実施等 <p>●引き続き、農林水産物のブランド化や販売促進の取組を進め、その魅力を積極的に発信してまいります。</p>
②	<p>○開催県としての注目の高まりを活用した広報活動の推進</p> <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両大会の観覧が見込まれる近隣県等において、開催のPRを行っています。 <ul style="list-style-type: none"> ・県外での開催PR 8回（平成29年4月～平成30年3月20日） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き県外での開催PRを行い、県外からの観覧の誘客に努めてまいります。 <ul style="list-style-type: none"> [第74回国民体育大会推進事業（広報宣伝活動関連）] ※再掲（H30予算案：24,475千円） ・県内外におけるイベントでの広報宣伝活動 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茨城空港就航先の旅行会社に対し、スポーツを絡めた旅行商品の造成を働きかけるとともに、茨城空港を利用してスポーツ大会や合宿に参加する団体等を支援しています。 <ul style="list-style-type: none"> （平成29年度実績）5団体・116人送客予定（平成30年3月6日現在） <p>○旅行会社に対する旅行商品造成の提案など誘客促進</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、旅行会社やスポーツ団体等に対し、積極的に働きかけてまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成支援、メディアを活用した情報発信、観光キャンペーンの実施等 ・観光に係る情報発信、観光キャンペーンの実施、旅行商品造成支援、地域イベントへの支援等

(3) おもてなしをはじめとした県民運動等の推進

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>① ○ いばらき観光おもてなし推進条例の趣旨等を踏まえた、おもてなしをはじめとする県民運動の推進</p>	<p style="text-align: center;">現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県民が、誠意とまごころを持って来県者の方々に温かく迎えるなど、心のこもったおもてなしに取り組んでおります。 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村において、競技会場や沿道をたぐさんの花で飾花する「花いっぱい運動」の実施 ・元気なあいさつ・親切な対応でもてなそう（あいさつ運動） ● 両大会の閉会式会場において、来県者に競技以外にも楽しんで参加していただける賑わいの場の提供や、豊かな自然に恵まれた食材を取り入れた郷土料理、特産品の提供を検討しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・来県者へのおもてなしの場としておもてなし広場（ラッキョー広場）の基本計画策定 ● 全県的なおもてなし機運の醸成に向け、以下の取組等を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし県民大会の開催（平成29年7月3日 ホテルグランド東雲（つくば市） 参加者：約1,000名） ・街頭キャンペーンの実施（平成29年7月4日 水戸駅、土浦駅、5日 日立駅、古河駅、鹿島神宮駅） ・おもてなし講座の開催（計12回開催、参加者：460名） ・観光マイスター認定試験の実施（平成29年10月22日、27日、合格者：248人（受験者：490名）） ・観光マイスターS級認定試験の実施（平成30年2月2日、4日、合格者：73名（受験者：186名）） ・観光ボランティアガイドの研修費用助成（平成29年度助成：5団体） <p style="text-align: center;">今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、県民運動を推進してまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・来県者に対し良質なサービスを提供できるよう、おもてなし宣言の実施をするため、関係機関（県ホテル旅館組合、県ハイヤータクシー協会等）との調整を図る。 ・関係機関の総会等で、両大会の開催及びおもてなし宣言への登録について説明を行い、リハ大会等に参加するために来県する選手や役員等に対し、心のこもったおもてなしで迎えるよう働きかける。 ・全国から訪れる選手・監督等をおもてなしの心で迎えるため、応援のぼり旗を作成する。 <p style="text-align: center;">現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 両大会においても、観光マイスターの方々に、運営ボランティアに登録していただき、おもてなしのリーダーとして活動していただくため、関係機関と調整しています。 ● 観光マイスター認定者の活用として、以下の取組等を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・メディアへの出演（ケーズブルーテレビJWAY出演 10回×各1名） ・おもてなし等の講師派遣（取手市立藤代中学校（総合学習）2回×1名、JAF講演会1回×2名） ・いばらきっ子郷土検定への参加（1回×2名） ・県民大会やおもてなし講座における、観光案内の参考実演（計15回・名） <p style="text-align: center;">今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、全県的なおもてなし機運の醸成に努めますとともに、観光マイスター認定者についてはメディア出演や講演会等の講師、観光ガイド等として、積極的な活用を図ってまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし県民大会の開催、街頭キャンペーンの実施 ・「いばらき観光マイスター」、「同S級」認定試験の実施 等 ・おもてなし講座の実施、マイスター認定者の活用
<p>○ 「いばらき観光マイスター制度」認定者の活用</p>	<p style="text-align: center;">現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 両大会においても、観光マイスターの方々に、運営ボランティアに登録していただき、おもてなしのリーダーとして活動していただくため、関係機関と調整しています。 ● 観光マイスター認定者の活用として、以下の取組等を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・メディアへの出演（ケーズブルーテレビJWAY出演 10回×各1名） ・おもてなし等の講師派遣（取手市立藤代中学校（総合学習）2回×1名、JAF講演会1回×2名） ・いばらきっ子郷土検定への参加（1回×2名） ・県民大会やおもてなし講座における、観光案内の参考実演（計15回・名） <p style="text-align: center;">今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、全県的なおもてなし機運の醸成に努めますとともに、観光マイスター認定者についてはメディア出演や講演会等の講師、観光ガイド等として、積極的な活用を図ってまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし県民大会の開催、街頭キャンペーンの実施 ・「いばらき観光マイスター」、「同S級」認定試験の実施 等 ・おもてなし講座の実施、マイスター認定者の活用

提言項目

現在の取組状況、今後の予定等

② その他以下の取組
○地域団体と連携した「花いっぱい運動」の推進

【現在の取組状況】

- 開催年に花いっぱいでは来県者を迎えられるよう、「花いっぱい運動」を展開しています。
 - ・平成29年度より、試行栽培の実施
 - ・農業高校等が育成した約36,000苗及びプランター等の資材を全44市町村へ配付し、市町村の計画により育成協力団体（学校・自治会等）が育成した苗を各競技会場等へ飾花

【今後の予定】

- 引き続き花いっぱいでは来県者を迎えるよう、全市町村の協力のもと、「花いっぱい運動」を展開してまいります。
 - ・花いっぱい運動の更なる促進を図るため、「花の応援団」をHPで募集し、道路里親等が管理する花壇等へ立て札を設置してまいります。

【現在の取組状況】

- ダンスコンテスタの開催など、イメーゼンソングやダンスの普及啓発
- イメーゼンソングにあわせたダンスの指導者を育成するとともに、県内小中高生に実施を働きかけています。
 - ・平成29年度茨城県学校体育実技指導者講習会の「いきいきゆめダンス2019」の研修では、975人参加
 - ・平成29年度実施調査（11月末時点）669校
 - ・平成30年3月までの実施予定校 303校 計：972校（併せて全体の53%）
 - ※保育園、幼稚園、小・中・高校、特別支援学校等数：1,800校
- イメーゼンソングの普及を図っています。
 - ・茨城国体・全国障害者スポーツ大会イメーゼンソング「そして未来へ」全国配信（平成30年1月31日～）
県内ビックエコー19店舗他第一興商機器（DAM）設置店：（株）常磐第一興商は企業協賛オフィシャルサプライヤー
- イメーゼンソングに合わせたダンス「いきいきゆめダンス2019」のコンテストを開催し、普及啓発を図っています。
 - 開催日：平成29年12月9日（土）
 - 場 所：ノバホール（つくば市）
 - 参加者：県内のダンスチーム等 44チーム（485名）
 - 来場者：約1,000名
- イベント等でイメーゼンソングやダンスを活用し、両大会の機運醸成を図っています。
 - ・イベント等でのダンス披露回数 12回

【今後の予定】

- 平成30年度も引き続き「いきいきゆめダンス2019」を学校体育実技講習会において研修し、実施率向上を目指します。また、各地域でのイベント等において実施してもらうことで県内全域への普及を目指してまいります。
 - ・幼、小、中、高、特別支援学校の体育授業での活用や運動会、体育祭での実施
- 引き続き、ダンスコンテストやイベント等でのイメーゼンソング、ダンスの披露により、両大会開催に向け機運醸成を図ってまいります。
 - 〔第74回国民体育大会推進事業（広報宣伝活動関連）〕※再掲（H30予算案：24,475千円）
県内外におけるイベントでの広報宣伝活動

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>○ 両大会における財政負担の軽減及び認知度向上のため、企業・団体からの協賛制度の推進</p> <p>○ 茨城の豊かな農林水産物を食べていただくなど、本県ならではの検討</p>	<p>現在の取組状況</p> <p>● 両大会の認知度向上や本県の情報を発信するため、企業協賛活動を行っています。 ・平成28年度より各企業・団体に対して協賛金の募集活動を開始し、現在80の企業・団体からの協賛（平成30年2月末現在）</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き協賛活動に取り組み、協賛企業数・団体数の拡大を図ってまいります。 ・ 既訪問企業・団体に対する協賛案内の継続 ・ 未訪問企業・団体に対する協賛の案内を実施 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 両大会の参加者に茨城の豊かな農林水産物を食べていただくだけでなく、県栄養士会や調理師会、JA中央会などの協力を得て、宿泊施設などに参考にしてもらうために、朝・夕食7日分のモデル的な献立を作成しました。 ・ 標準献立部会ローキーンチーム（栄養士・調理師9名）で献立メニュー案を検討（会議4回開催） ・ 宿泊・衛生専門委員会（県旅館組合、県栄養士会など22名）で献立メニューを決定・・・平成30年2月開催 ● 県産農林水産物の販売コーナーを設置する販売店や本県食材を活用した料理を提供する料理店等を指定し、のぼり旗やミニのぼりの販促資材を配布することで県内外の消費者へのPRを実施しています。 ・ 茨城県農林水産物取扱指定店（501店舗） ・ いばらきの地魚取扱店（136店舗） ● 国体会場となる施設の木造化・木質化を進めるとともに、県産木材で製作したうちわに茨城国体のマスコットキャラクター「いばらッキー」を印刷し、ショッピングモール等のイベント会場で配布しました。 ・ 国体会場の木造化：牛久市武道館 ・ 木製うちわの配布：県内6会場 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊・衛生専門委員会で決定した献立をまとめた冊子を作成するとともに、HPなども活用し、宿泊施設や飲食店、県民などに対し、広く周知を図ってまいります。 ● 両大会の昼食弁当を安全・確実に供給でききる事業者を募集するとともに、当該事業者や県栄養士会、JA中央会などの協力を得ながら、茨城の豊かな農林水産物を味わっていただけたらいいと思います。 ・ モデル献立普及用印刷物作成、弁当業者選定、弁当献立作成 等 ● 販売店、料理店に対し、のぼり旗やフラッグ等の販促資材を配布し、来県者等にわかりやすいようにPRし、本県産農林水産物でおもてなしを行ってまいります。 ● 国体を契機として県産木材の良さをPRするため、国体会場での県産木材の利用を推進してまいります。 ・ 県産木材の利用促進につながる木造施設や木製品導入の支援を実施 ・ 林業の役割などについて参加型イベントを活用した普及啓発活動や地域の団体の活動支援を実施

(4) 大会運営における環境等の整備

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>① ○安全・安心の確保に向けた警備体制の構築</p>	<p style="text-align: center;">現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●警備・消防対策について、警備・消防専門委員会において、推進体制や活動要領を定めた「自主警備業務実施計画」、「消防防業務実施計画」、「大規模災害・突発重大事案対策業務実施計画」及び「開閉会式会場管理運営要綱」を策定しました。 ・警備・消防専門委員会（県警本部、県消防長会など10名）で策定・・・平成29年12月開催 ●テロや犯罪の未然防止を図るため、競技会場及びその周辺への防犯カメラの設置に係る市町村への働きかけを推進中です。 <p style="text-align: center;">【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上記「自主警備業務実施計画」等をもとに、必要な人員規模・配置などを検討し、自主警備・交通警備体制の計画を策定してまいります。 [第74回国民体育大会推進事業（開・閉会式等警備実施計画策定事業）]（H30予算案：10,859千円） <ul style="list-style-type: none"> ・自主警備・交通警備実施計画策定 ●茨城国体等の開催に向けて、市町村が行う犯罪の抑止等に有効な街頭防犯カメラの設置を支援してまいります。 [国民体育大会・障害者スポーツ大会警備対策事業]（H30予算案：72,963千円） <ul style="list-style-type: none"> (1) 街頭防犯カメラ設置補助制度（59,400千円） 補助先：市町村，補助率：1/2（上限20万円/台），補助数：297か所 (2) 警備対策経費（13,563千円） レンタカー，資機材等 <p style="text-align: center;">【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●両大会参加者の円滑な輸送に向けて、会場地市町村のバス確保など輸送対策を支援するとともに、開・閉会式における参加者の輸送計画を検討し、必要なバスの確保やパークアンドライド用の駐車場の確保を進めております。 ・臨時駐車場用地の確保・・・笠松周辺企業等に協力要請を行い、乗用車約9,000台分の臨時駐車場用地を確保 ・バス車両の確保・・・県バス協会と連携し、バス事業者に協力要請を行い、1日約500台、期間中1万台以上の提供意向を確認 <p style="text-align: center;">【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、県と会場地市町村の輸送計画の精度を高め、県バス協会などと連携し、必要となるバス車両などの確保を図り、万全の体制を整えてまいります。 ●交通混雑の緩和に向け、警察や道路管理者と連携し、誘導案内表示や交通規制、交通総量抑制対策なども検討してまいります。 [第74回国民体育大会推進事業（国体輸送対策）]（H30予算案：21,846千円） [第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（大会宿泊輸送対策）]（H30予算案：24,840千円） <ul style="list-style-type: none"> ・バス運行スケジュール・ルート作成，バス・駐車場借上協定締結，駐車場改修，交通誘導員・看板等配置計画作成 等

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等																																			
<p>○ 宿舍の選定、確保及び配宿等への対応</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大会参加者等のため、宿舍の確保を図るとともに、円滑な配宿ができるようインターネット予約システムの基本設計や配宿シミュレーションを行っております。 ・ 宿泊施設の確保・・・県ホテル旅館組合などと連携し、1日約1.4万人、期間中約18万人分の提供意向を確認 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各県選手団への意向調査等により、配宿計画の精度を高めるとともに、引き続き、県内宿泊施設に対し、客室提供を要請し、必要な客室数の確保を図ってまいります。 ● 参加者の円滑な配宿ができるよう宿泊申し込みの受付などを行う「配宿センター」を立ち上げてまいります。 [第74回国民体育大会推進事業（国体宿泊対策）]（H30予算案：9,140千円） [第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（大会宿泊輸送対策）]（H30予算案：24,840千円） ※再掲 ・ 配宿計画の精度向上、宿泊施設の協力確保、配宿センターの立ち上げ 等 																																				
<p>② ○ 会場周辺等における環境美化活動</p> <p>○ 会場におけるトイレの洋式化及び温水洗浄便座の設置検討</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存のクリーンアップ運動と連携した環境美化活動を推進するため、関係機関と調整を行ってまいります。 ・ 各市町村の既存のクリーンアップ運動と連携し、「開催1年前クリーンアップ運動」を実施予定 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開催1年前クリーンアップ運動を開催してまいります。 ・ 「開催1年前クリーンアップ運動」平成30年8月4日予定 ・ 「開催1年前クリーンアップ運動」を実施する市町村へ、単手の配付 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国体の会場となる各競技施設の管理者においては、競技施設の整備と併せて、利用者のニーズ等に応じ、トイレの洋式化等の整備を進めております。 ・ 国体競技施設におけるトイレ洋式化の状況（屋内トイレ） <table border="1" data-bbox="981 526 1141 1478"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">改修前</th> <th colspan="2">現状（改修後）</th> </tr> <tr> <th>洋式化率</th> <th>温水洗浄化率</th> <th>洋式化率</th> <th>温水洗浄化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県施設</td> <td>65.9%</td> <td>26.6%</td> <td>70.9%</td> <td>37.9%</td> </tr> <tr> <td>市町村施設</td> <td>61.0%</td> <td>29.9%</td> <td>75.2%</td> <td>44.5%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>62.9%</td> <td>28.6%</td> <td>73.7%</td> <td>42.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各競技施設の管理者と連携し、引き続き、トイレ洋式化・温水洗浄化の向上に努めてまいります。 ・ 平成30年度の各施設整備事業による改修後の状況（屋内トイレ） <table border="1" data-bbox="1260 896 1396 1478"> <thead> <tr> <th></th> <th>洋式化率</th> <th>温水洗浄化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県施設</td> <td>95.1%</td> <td>55.2%</td> </tr> <tr> <td>市町村施設</td> <td>75.2%</td> <td>44.5%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>82.4%</td> <td>48.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 市町村施設分はこれまで把握している現状（改修後）の状況を記載</p>		改修前		現状（改修後）		洋式化率	温水洗浄化率	洋式化率	温水洗浄化率	県施設	65.9%	26.6%	70.9%	37.9%	市町村施設	61.0%	29.9%	75.2%	44.5%	合計	62.9%	28.6%	73.7%	42.2%		洋式化率	温水洗浄化率	県施設	95.1%	55.2%	市町村施設	75.2%	44.5%	合計	82.4%	48.9%
	改修前		現状（改修後）																																		
	洋式化率	温水洗浄化率	洋式化率	温水洗浄化率																																	
県施設	65.9%	26.6%	70.9%	37.9%																																	
市町村施設	61.0%	29.9%	75.2%	44.5%																																	
合計	62.9%	28.6%	73.7%	42.2%																																	
	洋式化率	温水洗浄化率																																			
県施設	95.1%	55.2%																																			
市町村施設	75.2%	44.5%																																			
合計	82.4%	48.9%																																			

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>○県内全域におけるフリーWi-Fiなど通信環境の整備検討</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市町村に対して防災拠点等の公共的な施設へのWi-Fi整備を働きかけるとともに、市町村や各部署が取り組む民間施設を含めたWi-Fi環境の整備に対して技術的助言を行っています。 ●市町村が行う観光施設におけるWi-Fi環境の整備を行うとともに、観光事業者に対して働きかけを行っています。 <p>(市町村への整備補助) ※茨城県国際観光テーマ地区協議会事業として実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設へのWi-Fi環境の整備 補助率 1/2 ・観光庁補助金の活用促進) ・宿泊施設や観光案内所等のWi-Fi環境の整備 補助率 1/3 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、市町村に対してWi-Fi整備を働きかけるとともに、市町村や各部署が取り組む民間施設を含めたWi-Fi環境の整備に対して技術的助言を行っています。 ●引き続き、市町村への補助等を実施するなど、観光施設のWi-Fi環境の整備の促進を図ってまいります。
<p>③</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本県においては、多数の者が利用する場所における禁煙の徹底、禁煙認証施設の普及を図る「茨城県たばこ対策県民運動指針」が示され、同指針に基づき、各施設管理者による適切な対応がなされており、国体及び大会で利用される施設においても、建物内禁煙や分煙などの受動禁煙防止対策が講じられております。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国(厚生労働省)において、2020年開催の東京五輪・パラリンピックに向けた受動喫煙防止対策が検討されるなどの状況もありますことから、今後とも国の動向を注視し、適切な対応を図ってまいります。
<p>④</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿泊施設ごとの受入数を調整するため、第1次参加意向調査を行うとともに、障害特性に合った適切な配宿のため、宿舎の客室タイプや設備面の調査を実施し、第1次配信計画を策定しています。 ●また、大会参加者及び観客の安全かつ円滑な輸送を行うため、道路及び交通状況を十分考慮した輸送体制の整備を進めるとともに、鉄道駅等のバリアフリー調査を実施し、第1次輸送計画を策定しています。 ●[第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費(宿泊輸送業務委託)](H29予算:6,769千円) ●国体の競技会場となる県や市町村の競技施設は、茨城県体の開催基本構想により、ユニバーサルデザインに配慮しますとともに、バリアフリー法に基づき、高齢者や障害者が安全に利用できるよう対応しております。 ●両大会の会場整備は、総合開閉会式会場となる笠松運動公園陸上競技場の整備を県が担当し、各競技会場は、競技会運営を担当する市町村が競技団体と連携して整備を行うこととしております。 ●競技会場市町村に対し、情報交換会などを通じ、誰もが移動しやすい会場通路や、分かり易い案内サイン、障害者などが利用しやすいトイレなど、来場者が快適に観戦できる会場づくりに向けて、基本的考え方を示すとともに、先催県のモデル例を紹介してまいりました。 ・競技会場運営研修会の開催・・・会場地市町村の情報共有・交換などを目的に全体会議、ブロック会議を開催※再掲 ・施設整備専門委員会(県体協、学識経験者など15名)でサインデザインガイドラインの策定・・・平成29年12月開催

提言項目

現在の取組状況、今後の予定等

【今後の予定】

- 第2次参加意向調査を実施し、宿泊・輸送ともにより詳細なバリアフリー等の調査を実施し、第2次計画を策定してまいります。
- 第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（宿泊輸送業務委託）〔H30 予算案：24,840 千円〕
- 高齢者や障害者を含めた来場者が快適に参加できるよう、総合開・閉会式会場の設置を行ってまいります。
- 第74回国民体育大会推進事業（総合開・閉会式会場設営）〔H30 予算案：21,610 千円〕
- 会場整備のための実施設計
- 会場地市町村への競技会運営・会場設営のための支援制度を検討してまいります。
- 会場地市町村の意見を踏まえ、平成30年度に制度設計し、平成31年度に予算化予定

【現在の取組状況】

- <ハード>
- 誰もが安全で快適に大会を楽しむことが出来るよう、会場のバリアフリー等に関する仮設整備を行うため、競技会場整備基本設計を策定しています。
 - 第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技会場整備基本設計委託）〔H29 予算：8,204 千円〕
- <ソフト>
- 障害のある人の特性やサポート方法のポイントなどを紹介する「茨城県サポートガイドブック」を作成し、ホームページに掲載するなど、広く県民への周知を図っています。
 - また、選手等の介助・誘導等を行うとともに、選手との交流を通して若者が障害のある方への理解を深め、大会後もボランティアとして地域で活躍してもらえらるよう学生等で構成する「選手団サポートボランティア」を養成することとし、養成協力校（大学、短大、専修学校）に対し委嘱状を交付しました。
 - 第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（選手団サポートボランティア養成）〔H29 予算：2,024 千円〕

【今後の予定】

- <ハード>
- 平成29年度に策定した基本設計をもとに、備品リスト、仮設整備詳細設計やバリアフリー整備配置図及び会場サイン設計を行う競技会場整備実施設計を策定してまいります。
 - 第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技会場整備実施設計委託）〔H30 予算案：17,359 千円〕
- <ソフト>
- 児童・生徒の障害に対する理解を深めるため、学校と連携を図り、式典への参加や競技会場への参加を促進します。さらに、国体及び全国障害者スポーツ大会の広報イベント会を通じ、障害者に対する理解を深めてもらうよう、積極的に取り組んでまいります。
 - また、「選手団サポートボランティア」については、養成協力校において学生に対しボランティア養成講座を実施してまいります。
 - 第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（選手団サポートボランティア養成）〔H30 予算案：2,723 千円〕

○ 全国障害者スポーツ大会会場のハード・ソフト両面における環境整備

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>○会場におけるバリアフリー化の常設検討</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 笠松運動公園を含む各競技会場において、選手や観客の動線の確保や競技運営方法などについて市や競技運営主管団体と競技会運営調整会議を開催し、バリアフリー化について協議を行っているところ。また、同会議において、競技会場を所管する市に対して、全国障害者スポーツ大会を契機とするバリアフリー施設の常設化について働きかけを行うとともに、必要に応じて、トイレやスロップ等を仮設により整備することとしています。 <p>[第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技会場整備基本設計業務委託）]（H29 予算：8,204 千円）</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会場地には、引き続き同会議を通じ競技会場のバリアフリー施設の常設化について働きかけてまいります。 ● [第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技会場整備実施設計委託）]（H30 予算案：17,359 千円） ● 笠松運動公園の陸上競技場及び屋内水泳プールのバリアフリー施設の常設化についても、検討してまいります。
<p>⑤ ○業務分担や経費負担の軽減に配慮した市町村との連携・協力</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技会運営に係る市町村経費負担の軽減を図るため、競技団体が行う競技役員等の養成費用の一部を支援し、競技役員等県内での確保を促しています。 ● 競技会運営主体である市町村と競技団体が協力して開催準備に当たられるよう、競技団体が行う先催県視察等に要する費用の一部を支援しています。 ● 競技会開催準備に向けた共通理解を図るため、競技会運営における県・市町村・競技団体の役割分担等を明記した「競技運営準備マニュアル」を作成しました。 ● 競技会運営に必要な競技補助員の人数が十分確保できざるよう、市町村の派遣希望人数を学校等の関係機関に伝え、協力を働きかけるなどの調整を行っています。 ● 競技別リハースアル大会に係る運営業務の効率化や経費負担の軽減を目的に、市町村や競技団体と随時協議を行っています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市町村及び競技団体が実施する競技別リハースアル大会に対して、その開催経費の一部を支援してまいります。 <p>[第74回国民体育大会推進事業（競技別リハースアル大会運営費補助事業）]（H30 予算案 380,724 千円）</p> <p>(1) 市町村及び競技団体が実施する競技別リハースアル大会（対象 48 大会（正式・特別 38 競技））</p> <p>(2) 補助率 対象経費の 1/2 以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技会場となる県有施設（笠松運動公園陸上競技場、県立高校など）の備品（競技会運営に必要な用具）を整備し、開催市町村の負担を軽減してまいります。 <p>[第74回国民体育大会推進事業（競技用具購入分）]（H30 予算案 90,814 千円）</p>

2 両大会後も見据えた競技力の向上等

(1) 選手の育成・強化等

ア ジュニア選手の発掘・育成・強化

提言項目		現在の取組状況, 今後の予定等																																					
①	○ 中長期的な視点に立った戦略的・体系的な選手強化計画の策定	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県競技力向上対策本部では、平成 25 年 3 月に競技力向上対策基本計画を策定し、この計画に基づいて選手強化を進めています。 <table border="1"> <tr> <td>開催地</td> <td>岐阜県</td> <td>東京都</td> <td>長崎県</td> <td>和歌山県</td> <td>岩手県</td> <td>愛媛県</td> <td>福井県</td> <td>茨城県</td> </tr> <tr> <td>年 度</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>H31</td> </tr> <tr> <td>強化推進計画</td> <td colspan="3">発掘・育成期</td> <td colspan="3">強化期</td> <td colspan="2">完成期</td> </tr> <tr> <td>天皇杯目標</td> <td colspan="3">10 位台への挑戦</td> <td colspan="3">段階的に順位を上げる</td> <td colspan="2">10 位以内</td> </tr> </table> <p>● 茨城団体で天皇杯・皇后杯を獲得するために、活躍が期待される選手をジュニアエリアエアリート・ジュニアエアリート・ジュニアエアリートチームとして中学生から強化指定して、本県代表としての意識の高揚と選手強化を図っています。</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、競技力向上対策基本計画に基づき、選手強化を進めてまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県競技力向上対策本部では、競技団体と連携して全国大会等を視察し、有望な選手の発掘に努めています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き選手の発掘に努めるとともに、私立学校と連携して県外選手の受入れ体制を検討してまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技団体と市町村が連携して選手の発掘・育成に取り組む事業を実施しています。 [元氣いばらき選手育成強化事業（会場地選手強化支援事業）] (H29 予算：6,000 千円) (1) 対象事業 競技団体と競技開催市町村が行う競技体験, PR, 強化練習等の事業 (2) 補助率 10/10 (上限 300 千円) (3) 実績 実施競技数：26 競技 実施回数：延べ 94 回 実施市町村：26 市町村 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 上記事業で発掘・育成した選手を強化してまいります。 		開催地	岐阜県	東京都	長崎県	和歌山県	岩手県	愛媛県	福井県	茨城県	年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	強化推進計画	発掘・育成期			強化期			完成期		天皇杯目標	10 位台への挑戦			段階的に順位を上げる			10 位以内	
開催地	岐阜県	東京都	長崎県	和歌山県	岩手県	愛媛県	福井県	茨城県																															
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31																															
強化推進計画	発掘・育成期			強化期			完成期																																
天皇杯目標	10 位台への挑戦			段階的に順位を上げる			10 位以内																																
	○ 県外の優秀な選手の受入れ検討																																						
	○ 特定の競技種目に限らない、広い視野に立った選手の発掘																																						

提言項目

現在の取組状況、今後の予定等

<p>② ○運動部活動の充実・強化</p> <p>○公立学校における運動部活動の充実・強化のための以下の取組の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部員募集の在り方 ・県立高校入学者選抜における特色選抜の活用 ・生徒の競技ニーズに応じた多様な運動部活動の設置 ・指導者の配置 	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動部活動の指導者を対象として研修会を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、中・高等学校、特別支援学校の運動部活動指導者を対象とした効果的・効率的な指導方法について研修 「講演の部」運動競技に共通した最新のスポーツ医・科学的なトレーニング理論についての研修 「実技の部」4競技種目を設定し、実践的な効果的・効率的な指導方法の習得についての研修 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き研修会を実施し、運動部活動指導者の資質向上に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> 【体罰防止指導者研修事業】(H30予算案：1,143千円) 「実技の部」ハンドボール、卓球、バスケットボール、ソフトボール <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学校で、入学後に入部に関するオリエンテーションの実施や、体験入部等の期間を設けて、生徒の部活動への興味や関心を高める取組を推進しています。 ●県立高校が設定した出願要件（文化、芸術、体育等）において、優れた資質・実績を有する受検者を選抜できる特色選抜の活用を推進しています。 ●県立高校の運動部活動については、学校の特性や生徒のニーズなどを踏まえ、設置するよう推進しています。 ●県立高校における教員の配置については、開催地を考慮し、その地域の学校に専門の教員を配置するよう努力しています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して、公立学校における運動部活動の充実・強化を進めてまいります。 																								
<p>③ ○私立学校との連携・協力</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●私立高等学校等における運動部活動について、各種大会の入賞実績や国民体育大会への出場選手数に応じて支援を実施しています。（私立高等学校等経常費補助事業費にて、加算配分を実施） <table border="1" data-bbox="965 309 1093 1556"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度（見込み）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運動部各種大会入賞実績に応じた補助実績</td> <td>23校 20,400千円</td> <td>21校 31,500千円</td> <td>21校 37,500千円</td> </tr> <tr> <td>国民体育大会出場選手数に応じた補助実績</td> <td>22校 14,400千円</td> <td>22校 15,150千円</td> <td>21校 15,500千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23校 34,800千円</td> <td>23校 46,650千円</td> <td>23校 53,000千円</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●支援の結果、国体出場者のうち私立学校生徒が増加しています。 <table border="1" data-bbox="1125 537 1189 1556"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国民体育大会私立学校生徒出場者数</td> <td>78名</td> <td>117名</td> <td>115名</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成29年度私学連携要請書を県私学協会会長に提出し、協力を要請しました。</p> <p>(1) 期 日 平成29年4月28日（金）</p> <p>(2) 要請者 山口やちろ 県競技力向上対策本部長（県副知事）</p> <p>(3) 要請先 鈴木 康之 県私学協会会長（水戸女子高等学校校長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●強化指定選手・チームを有する県内私立高校を訪問し、国体への協力、選手獲得や指導者の校務負担軽減を依頼しました。 	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度（見込み）	運動部各種大会入賞実績に応じた補助実績	23校 20,400千円	21校 31,500千円	21校 37,500千円	国民体育大会出場選手数に応じた補助実績	22校 14,400千円	22校 15,150千円	21校 15,500千円	計	23校 34,800千円	23校 46,650千円	23校 53,000千円	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	国民体育大会私立学校生徒出場者数	78名	117名	115名
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度（見込み）																						
運動部各種大会入賞実績に応じた補助実績	23校 20,400千円	21校 31,500千円	21校 37,500千円																						
国民体育大会出場選手数に応じた補助実績	22校 14,400千円	22校 15,150千円	21校 15,500千円																						
計	23校 34,800千円	23校 46,650千円	23校 53,000千円																						
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度																						
国民体育大会私立学校生徒出場者数	78名	117名	115名																						

提言項目

現在の取組状況、今後の予定等

	<p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き私立高等学校等における競技力向上への支援を実施します。 [私立高等学校等経常補助事業（高等学校等分）]（H30予算案：7,539,345千円） ●私立高校に対して、選手強化及び指導者の校務負担軽減等を引き続き依頼してまいります。 																		
<p>④ ○競技団体が市町村と連携して行う選手の発掘・育成等の取組に対する支援 ○国体後も市町村が行う選手の発掘・育成等への継続支援 【※再掲：3(2)③】</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●競技団体が市町村が連携して選手の発掘・育成に取り組む事業を支援しています。 [元氣いばらき選手育成強化事業（会場地選手強化支援事業）]（H29予算：6,000千円） (1) 対象事業 競技団体と競技開催市町村が行う競技体験、PR、強化練習等の事業 (2) 補助率 10/10（上限300千円） (3) 実績 実施競技数：26競技 実施回数：延べ94回 実施市町村：26市町村 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上記事業で発掘・育成した選手を強化してまいります。 ●茨城国体に向けて高めた競技力を一過性のものとしないうちに、茨城国体終了後の諸施策について検討してまいります。 																		
<p>⑤ ○食事の管理を含むスポーツ医・科学の活用</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チームいばらきサポーター事業により、選手や指導者等に対して医・科学サポートを実施しました。 [元氣いばらき選手育成強化事業（チームいばらきサポーター事業）]（H29予算：44,633千円） (1) 実施内容 ①メデイカル：医・科学アドバイス ②トレーニング：効果的なトレーニングアドバイス ③栄養：栄養摂取に関するアドバイス ④メンタル：選手のメンタル面での支援 (2) 実績 績（平成30年2月20日現在） <table border="1" data-bbox="869 436 965 1512"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>メデイカル</th> <th>トレーニング</th> <th>栄養</th> <th>メンタル</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>競技数</td> <td>5競技</td> <td>12競技</td> <td>3競技</td> <td>7競技</td> <td>27競技</td> </tr> <tr> <td>延べ派遣人数</td> <td>35名</td> <td>78名</td> <td>5名</td> <td>19名</td> <td>137名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●県体育協会スポーツ医・科学委員会と連携し、国体に出場する選手・監督を対象にアンチ・ドーピング講習会を実施しました。 (1) 第72回国民体育大会 ①期日・場所 平成29年9月20日(水) 県武道館 大道場 ②内容・講師 「アンチ・ドーピングについて」 小沼 祐之薬剤師（なかとみ薬局） ③参加者 選手：210名、監督：44名 計：254名 (2) 第73回国民体育大会冬季大会 ①期日・場所 平成30年1月10日(水) 水戸啓明高等学校 会議室 ②内容・講師 「アンチ・ドーピングに対する正しい知識について」 上牧 裕医師（水戸赤十字病院副院長） ③参加者 選手：19名、監督2名 計：21名 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、チームいばらきサポーター事業及び県体育協会スポーツ医・科学委員会と連携して、医師・薬剤師・学識経験者・アスレチックトレーナー等の派遣及びアンチ・ドーピング講習会を実施してまいります。 	区分	メデイカル	トレーニング	栄養	メンタル	合計	競技数	5競技	12競技	3競技	7競技	27競技	延べ派遣人数	35名	78名	5名	19名	137名
区分	メデイカル	トレーニング	栄養	メンタル	合計														
競技数	5競技	12競技	3競技	7競技	27競技														
延べ派遣人数	35名	78名	5名	19名	137名														

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
⑥	○合宿や大会等への参加に伴う、統一した出欠席の取扱いの検討	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●統一した出欠席の取扱いを定めた県教育委員会教育長名による通知文「児童生徒が茨城国体等に向けた競技力向上事業等へ参加した場合は学校の取扱いについて」を、平成29年2月13日付けで各学校に通知しました。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校長会や教頭会等の場において、通知文の周知徹底を図ってまいります。

イ 成年選手の強化・確保等

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等																				
①	○引退後も本県に残り、指導者等として活動することを視野に入れた県内外からの選手の確保	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●競技団体から推薦された優秀な選手を対象に、社会人選手雇用に向けた企業合同説明会を開催しました。 (1) 期日・会場 平成30年2月19日(月) ホテルレイクビュー水戸 ●平成30年度採用公立学校教員選考試験において「スポーツアスリート特別選考」を設け、国内トップレベルの実績を有し、茨城国体に出場した後は教員として指導に当たる選手を選考しました。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●競技団体及び県内企業、県内外の大学に対して、選手の企業雇用や教員採用について引き続き働きかけを行います。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度までに県競技力向上対策本部では、競技団体と連携して選手のスカウティングを行い、茨城国体で高得点が期待できる22名の選手をスポーツ専門員として雇用しました。 ●また、平成29年度までに4名の選手を4市町で採用していただき、平成30年度については新たに3市村で5名の選手が採用予定となっております。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成30年度のスポーツ専門員につきましては、昨年まで雇用した選手を含め62名の選手を雇用してまいります。 ●平成31年度市町村職員採用に向けて、引き続き各市町村に協力を依頼してまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県競技力向上対策本部ではこれまで94社の企業を訪問し、51社に社会人選手雇用を検討いただいています。 ●県内企業の採用状況(平成30年2月14日現在) (延べ数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>採用年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度 採用予定者</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業数</td> <td>5社</td> <td>9社</td> <td>6社</td> <td>20社</td> </tr> <tr> <td>競技数</td> <td>4競技</td> <td>6競技</td> <td>4競技</td> <td>14競技</td> </tr> <tr> <td>採用人数</td> <td>5名</td> <td>13名</td> <td>8名</td> <td>26名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●平成30年2月19日に、社会人選手雇用に向けた企業合同説明会を開催しました。 	採用年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 採用予定者	合計	企業数	5社	9社	6社	20社	競技数	4競技	6競技	4競技	14競技	採用人数	5名	13名	8名	26名
採用年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 採用予定者	合計																		
企業数	5社	9社	6社	20社																		
競技数	4競技	6競技	4競技	14競技																		
採用人数	5名	13名	8名	26名																		

現在の取組状況、今後の予定等	
提言項目	<p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き企業訪問や企業合同説明会を実施し、選手の雇用先の拡大を図ってまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県競技力向上対策本部では、競技団体と連携して選手のスカウティングを行うことで有望選手の獲得を図り、平成30年度は、平成29年度までに雇用した選手を含め62名の選手を雇用します。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●より高いレベルの選手を獲得するために、東京オリンピックへ出場が見込まれる選手については、茨城国体後も東京オリンピックまで雇用が継続できるようにしていきます。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茨城国体に向けた強化指定制度を活用して、企業チームへの支援を行っています。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 支援企業（9社） ①(株)新日鐵住金（ボート：成年男子，成年女子），②日立リヴァーレ（バレーボール：成年女子），③日立金属(株)（バスケットボール：成年男子），④日立化成(株)（バドミントン：成年女子，卓球：成年女子），⑤筑波病院（軟式野球：成年男子），⑥(株)筑波銀行（軟式野球：成年男子），⑦(株)常陽銀行（軟式野球：成年男子），⑧日本原子力研究開発機構（軟式野球：成年男子），⑨日立製作所（ラグビーフットボール：成年男子） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き強化指定制度を活用して、企業チームへの支援を継続していきます。
②	<p>○県内企業が取り組む企業チームの活動に対する支援</p>

(2) 指導体制の充実・強化

現在の取組状況、今後の予定等	
提言項目	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度の教員選考試験から新たに「スポーツアスリート特別選考」制度を設け、教員免許を有する優秀な競技者を本県の保健体育の教員として、5名採用する予定です。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成31年茨城国体開催年の教員採用試験まで、3年間継続して実施してまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教員の配置については、開催地を考慮し、その地域の学校に専門の教員を配置するよう努力しています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後も教員の計画的な異動や配置等について努力してまいります。
①	<p>○教員採用試験の見直し等</p> <p>○競技の特性などを踏まえた教員の計画的な異動や配置等</p>

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等																			
○部活動指導者の意欲を高める方策の検討	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動部活動の指導者を対象として研修会を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、中・高等学校、特別支援学校の運動部活動指導者を対象とした効果的・効率的な指導方法について研修 「講演の部」運動競技に共通した最新のスポーツ医・科学的なトレーニング理論についての研修 「実技の部」4競技種目を設定し、実践的な効果的・効率的な指導方法の習得についての研修 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き研修会を実施し、運動部活動指導者の資質向上に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> 「運動部活動指導者研修」 「実技の部」ハンドボール、卓球、バスケットボール、ソフトボール 																				
② ○スポーツ専門員制度や地方公共団体への雇用を活用した指導者の確保	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度までに県競技力向上対策本部では、競技団体と連携して選手のスカウティングを行い、茨城国体で高得点が期待できる22名の選手をスポーツ専門員として雇用しました。 ●また、平成29年度までに4名の選手を4市町で雇用していただき、平成30年度については新たに3市村で5名の選手が内定をいただきました。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成30年度スポーツ専門員につきましては、昨年まで雇用した選手を含め62名の選手を雇用してまいります。 ●平成31年度市町村職員採用に向けて、引き続き各市町村に協力を依頼してまいります。 <ul style="list-style-type: none"> 【※再掲：2(1)イ①】 																				
○県内企業等に対する雇用の場の確保に向けた働きかけ	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまで94社の企業を訪問し、51社が社会人選手の雇用を検討していただいています。 ●県内企業の採用状況(平成30年2月14日現在) <table border="1" data-bbox="965 548 1093 1545"> <thead> <tr> <th>採用年度</th> <th>平成28年採用者</th> <th>平成29年採用者</th> <th>平成30年内定者</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業数</td> <td>5社</td> <td>9社</td> <td>6社</td> <td>20社</td> </tr> <tr> <td>競技数</td> <td>4競技</td> <td>6競技</td> <td>4競技</td> <td>14競技</td> </tr> <tr> <td>採用人数</td> <td>5名</td> <td>13名</td> <td>8名</td> <td>26名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 【※再掲：2(1)イ①】 <p>●平成30年2月19日に、社会人選手雇用に向けた企業合同説明会を開催しました。【※再掲：2(1)イ①】</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き企業訪問や企業合同説明会を実施し、選手の雇用先の拡大を図ってまいります。 <ul style="list-style-type: none"> 【※再掲：2(1)イ①】 	採用年度	平成28年採用者	平成29年採用者	平成30年内定者	合計	企業数	5社	9社	6社	20社	競技数	4競技	6競技	4競技	14競技	採用人数	5名	13名	8名	26名
採用年度	平成28年採用者	平成29年採用者	平成30年内定者	合計																	
企業数	5社	9社	6社	20社																	
競技数	4競技	6競技	4競技	14競技																	
採用人数	5名	13名	8名	26名																	

(3) 競技力向上のための施設・環境等の整備

ア 笠松運動公園における施設整備

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
①	○施設整備及び利用環境の見直し	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茨城国体開催に向け、これまでに次の改修工事を実施しています。 陸上競技場屋根拡幅、観客席改修、園路改修、体育館アリーナ床改修、トイレ改修（洋式化）等 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き必要な施設・設備等の整備を行います。 防犯カメラ整備、体育館トイレ改修（洋式化）等 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在、国体終了後の競技力維持・向上に必要なスポーツ環境の整備について検討をしており、通年利用が可能なアイススケート場の整備や県体育協会会館の建替について、県スポーツ推進審議会に諮問をし、審議をしています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ推進審議会からの答申を受け、県としての整備計画を策定してまいります。

イ その他施設整備

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
①	<p>(7) 競技施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一日も早く早く強化練習等で利用できるよう速やかな整備 ○仮設施設の常設化の検討 	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国体会場となる施設の主な整備は、平成29年度中に完了する予定です。 ●国体の競技会場となる県内74施設のうち、56施設（常設44施設・仮設12施設）で改修などを行っており、順調に整備を進めております。 ・平成30年2月末現在の進捗率（起工ベース）94.3%（常設97.8%、仮設41.5%） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●工事中あるいは工事予定の施設については、速やかな整備に心がけ、できるだけ早い時期に強化練習に使用できるように努力してまいります。 ●常設施設については、平成30年中にすべて完了させるとともに、仮設施設については、平成31年の国体開催までに競技施設の整備を進めてまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県内に国体馬術競技会場として利用可能な施設がないため、県立水戸農業高等学校において、学校運営に支障のないよう配慮しながら、仮設整備を進めております。 ・H28：実施設計 ・H29：樹木伐採、造成、駐車場整備、馬場試験舗装
	○馬術競技場及びその周辺施設の改修における常設化の検討	

提言項目

現在の取組状況、今後の予定等

【今後の予定】

- 国体終了後の原状回復を原則として整備を進めておりますが、円馬場、観客スタンド、厩舎用地の残置など、一部施設の常設化を図る予定です。引き続き、学校や競技団体等と協議・検討し、国体後の大会開催などで有効活用できるように調整してまいります。
- [馬術競技会場仮設整備事業] (H30 予算案：524,677 千円)
 - ・ 競技場整備工事、厩舎・スタンドなど仮設建築物設営
- [校舎等整備費] (H30 予算案：1,266,673 千円の一部)
 - ・ 牛舎の外壁等の改修工事

【現在の取組状況】

○ 大会終了後の利活用を見据え、付帯施設も含めた競技施設の一体的整備

- 競技団体及び施設管理者等と連携し、次のとおり競技施設の整備を実施しています。

No.	競技会場 (競技名)	H28～29 実施事業	H30 事業	整備年度 (完成年月)
1	笠松運動公園陸上競技場 (陸上競技)	<ul style="list-style-type: none"> ・ H27 大型映像装置更新 ・ H28 屋根拡張(架替) ・ H29 観客席改修等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレ改修(洋式化) ・ 計時計測システム改修等 	H27～H30 (H31.3)
2	笠松運動公園屋内水泳プール (水泳(競泳・飛込・シンクロナイズドスイミング))	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 映像パネル更新 ・ H29 機械設備(ポンプ、ボイラー等)改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械設備(水質管理関連)改修 ・ 競技用備品整備 	H28～H30 (H31.3)
3	堀原運動公園武道館弓道場(弓道 近的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ H27 防矢ネット兼遮光スクリーン設置 ・ H28 観客席整備 ・ H29 射場改修(安土改修) 	—	H27～H29 (H30.3)
4	堀原運動公園武道館弓道場(弓道 遠的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 遠的射場増築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防矢ネット整備 	H27～H30 (H31.3)
5	県営ライフル射撃場 (ライフル射撃)	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 10m射場新築 ・ H28 50m射場改修等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10m射場空調整備 	H27～H30 (H31.3)
6	茨城県狩猟者研修センター射撃場(クレー射撃)	<ul style="list-style-type: none"> ・ バックストップネットの更新 ・ 射台やフィールドのレベル調整 ・ 管理棟の内装改修 ・ トイレの建替及びシャワー室の新設 	—	H28～H29 (H30.3)
7	茨城県立水海道第二高等学校体育館(ハンドボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・ H27 照明設備改修 ・ H29 外部改修 	—	H27・29 (H30.1)

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等		
8	茨城県立岩井高等学校体育館（ハンダーボール）	<ul style="list-style-type: none"> ・H27 照明設備改修 ・H28 アリーナナ拡張（設計） ・H29 アリーナナ拡張（工事） 	—	H27～29 (H30.3)
9	茨城県立勝田工業高等学校体育館（バレーボール）	<ul style="list-style-type: none"> ・H27 照明設備改修 ・H29 床研磨 	—	H27・29 (H29.8)
10	茨城県立土浦第二高等学校プール（水泳（水球））	<ul style="list-style-type: none"> ・H28 プールの嵩上げ（設計） ・H29 プールの嵩上げ（工事）、付属棟改修、諸室屋上防水、プールブロック積替 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30 諸室外壁改修 	H28～30 (H31.3)
11	茨城県立東海高等学校多目的グラウンド（ホッケー）	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 人工芝張替等（設計、工事） 	—	H29・30 (明許繰越)
12	県警察学校射撃場（ライフル射撃CP）	<ul style="list-style-type: none"> ・国体開催に向けた警察学校射撃場の改修工事を実施しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・射撃場の防弾堤、バックストップ、床面修繕等、本年度に引き続き国体開催に向けた改修工事を実施します。 	
13	カシマサッカースタジアム	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 実施の主な施設整備内容 <ul style="list-style-type: none"> ・屋根鉄骨修繕 ・外部階段鉄骨修繕 ・芝生改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30 実施予定の主な施設整備内容 <ul style="list-style-type: none"> ・和式トイレ洋式化 ・防犯カメラ増設 ・記者席更新（H30新規） ・屋根鉄骨修繕 ・外部階段鉄骨修繕（継続） ●引き続き、老朽化した施設の修繕を計画的に行うとともに、大会終了後も見据えて、観客の利便性や快適性、セキュリティ向上のための整備を進めていきます。 	

【現在の取組状況】

- 会場地市町村に対し、情報交換会などを通じ、スポーツを活用した全国の活性化事例を紹介してまいります。※再掲
- ・競技会場運営研修会の開催・・・会場地市町村の情報共有・交換などを目的に全体会議、ブロック会議を開催

【今後の予定】

- 国体開催後の競技定着・スポーツ振興を図る市町村の取組を促進してまいります。※再掲
- [第74回国民体育大会推進事業（地域活性化支援事業費）]（H30 予算案：5,000 千円）
- ・市町村における国体後の競技定着・スポーツ振興を図るモデルとなる取組に対し支援

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>提言項目</p> <p>① 競技施設以外の施設 ○ 競技力向上のためのトレーニング施設や拠点施設の積極的な整備等 ○ 県営野球場の在り方の検討</p> <p>② ○ 老朽化施設の改修等の推進</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国体終了後の競技力の維持・向上に必要なスポーツ環境の整備の一環として、トレーニング施設や拠点施設の必要性、また、県営野球場の在り方等について、現在、県スポーツ推進審議会において意見を求めているところです。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ推進審議会からの答申を受け、県としての整備計画を策定してまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年度は、老朽施設の改修等として、次の工事また備品等の購入を行いました。 笠松運動公園：陸上競技タイム計測機器等購入 堀原運動公園：野球場防球ネット整備、武道館暖房用ボイラー更新等 <p>【今後の予定】</p> <p>平成30年度は、次の改修等を行う予定です。 笠松運動公園：競技用備品の整備等 堀原運動公園：競技場管理棟防水塗装等</p>

環境等整備	
<p>提言項目</p> <p>① ○ 「国体は最も優先して参加すべき大会」との基本的認識の徹底</p>	<p>現在の取組状況、今後の予定等</p> <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 茨城国体で天皇杯・皇后杯を獲得するために、活躍が期待される有望選手、選手強化の中核となる団体、優秀な指導者に強化指定証を授与し、本県代表としての意識の高揚を図っています。 ● 指導者向けに開催している「ヴィクトリーセミナー」等を通じて、指導者及び選手に対して茨城国体に向けての意識の醸成を図っています。 <p>(1) 第4回チームいばらきヴィクトリーセミナー2017 ①期日 平成29年4月21日(金) ②内容 特別講演「果てしなき挑戦金メダルへの道」塚原 光男 日本体操協会副会長 講演「スポーツ選手の食事の基礎：勝つための準備」麻見 直美 筑波大学体育系准教授</p> <p>(2) 第5回チームいばらきヴィクトリーセミナー2017 ①期日 平成29年7月10日(月) ②内容 平成30年度強化計画検討会、競技団体情報交換会 (3) 第6回チームいばらきヴィクトリーセミナー2017 ①期日 平成29年11月21日(火) ②内容 第72回国民体育大会「笑顔つなぐ愛媛国体」報告、競技団体発表（競技団体実践発表） 講演「医科学的サポートの実践」宮川 俊平 筑波大学教授・医学博士</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き「ヴィクトリーセミナー」や強化指定等を通じて、指導者や選手や意識の醸成が図れるように進めてまいります。

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等															
○ 競技団体を中心とする財政支援の実施	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各選手、指導者の競技力を向上させるために、各競技団体への財政支援を中心とする予算の確保に努めています。 「元氣いばらき選手育成強化事業」当初予算額の推移(単位：千円) <table border="1" data-bbox="279 347 359 1545"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予算額</td> <td>162,110</td> <td>208,442</td> <td>312,183</td> <td>365,089</td> <td>454,420</td> <td>559,076</td> <td>617,970</td> </tr> </tbody> </table> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き各競技団体に対する財政支援を実施してまいります。 <p>【現在の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各競技団体の年間強化計画等を踏まえ、国体の成績等も加味しながら支援額を決定しております。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 茨城国体直前であることを踏まえて、できるだけ手厚い支援を実施するとともに、各競技団体が活用しやすいように支援対象経費等の見直しを行ってまいります。 	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度案	予算額	162,110	208,442	312,183	365,089	454,420	559,076	617,970
年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度案										
予算額	162,110	208,442	312,183	365,089	454,420	559,076	617,970										
② ○ 県内の大学等が有するハード・ソフト両面の資源の活用	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スーパーアードバイザー招へい事業やチームいばらきサポート事業において筑波大学や流通経済大学等と連携し、選手強化の課題分析を行ってほしい、また、風洞実験施設等を利用させてもらうなど、大学資源を活用しています。 ● 筑波大学及び流通経済大学に対しては、茨城国体での選手参加や施設等の利用について、個別に協力を要請しました。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、競技団体と連携を図りながら大学資源を十分に活用してまいります。 																
③ ○ 雇用の場の確保や支援の財源など民間の力の活用	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでに県内企業を訪問して選手の雇用の確保を依頼し、18名の選手を雇用いただいています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き企業訪問に取り組み、雇用の場の確保と財政的支援について協力を依頼してまいります。 																

(4) 組織の整備充実

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
①	○ 競技団体、競技力向上対策本部及び県体育協会間の連携・強化	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成28年12月に県競技力向上対策本部事務局執務室を県体育協会執務室の隣に移転させ、両者が一体となって強化事業に取り組み体制を整えるとともに、県競技力向上対策本部事務局である保健体育課スポーツ推進室を、平成29年度から国体競技力向上対策室に改組し、担当職員を大幅に増加させた上で、選手強化事業の実施主体を県競技力向上対策本部に一本化して、県体育協会や各競技団体と連携して取り組んでいます。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、県体育協会や各競技団体との連携を強化して、選手強化事業に取り組んでまいります。
②	○ 各種強化事業に係る事務手続等の簡素・省略化	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年4月から、県競技力向上対策本部と県体育協会がそれぞれ行っている国体に向けた選手強化事業及び会計処理を、県競技力向上対策本部に一本化しました。 ● また、各競技団体からの要望を踏まえ、選手強化事業に係る事務手続等の簡素化を検討しています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成30年度から事務手続等の簡素化が図られるようにします。
③	○ 選手からの意見・要望等に対するサポート体制の充実・強化	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県競技力向上対策本部事務局の担当者が各競技団体や選手・指導者と常に密な連携を図っており、様々な意見・要望等に対応しています。なお、平成29年4月から、一人の担当者が担当する競技数を、これまでの4～5競技から2～3競技に減らし、競技団体や選手とより連携を密にしています。 ● スポーツ専門員や市町村採用職員等を対象に「チームいばらきアスリート交流会」を定期的の実施し、選手間の士気高揚を図っています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き担当者が選手に寄り添い、選手が競技力向上に打ち込める環境の構築に努めていきます。

(5) 障害者スポーツの推進

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
①	○ 指導者の育成などによる競技人口の拡大	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催し、指導者数の拡大に努めています。 平成29年度講習会実施内容 ・ 中級 平成29年10月～11月の5日間：修了者数28名 ・ 初級 平成30年1月の3日間：修了者数47名 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、上記講習会を開催し、指導者数の拡大に努めてまいります。

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
<p>② ○障害者に対する理解促進を図るための取組の推進</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害者を対象とした各種スポーツ大会を開催するとともに、障害の有無や程度に関わらず障害者スポーツを楽しめる機会として、「障害者スポーツ教室」を県内各地で開催しています。 ○平成29年度の県大会実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうあいスポーツ大会 : 平成29年5月～6月, 参加者数2,474名 ・精神障害者スポーツ大会 : 平成29年6月, 参加者数110名 ・身体障害者スポーツ大会 : 平成29年9月, 参加者数329名 ○平成29年度の障害者スポーツ教室実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・8回実施(予定), 参加者数500名程度 ●肢体不自由特別支援学校3校と小・中学校, 高等学校9校が障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施しました。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き, 上記事業を開催し, 障害者スポーツの普及拡大を図ってまいります。 ○ゆうあいスポーツ大会 ○精神障害者スポーツ大会 ○身体障害者スポーツ大会 ○スポーツ教室 ●知的障害など他障害種の特別支援学校において, 引き続き上記事業を実施します。 	
<p>③ ○障害者スポーツの普及啓発に向けた取組の推進</p>	<p>【現在の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筑波大学に障害者スポーツの寄附講座を設置し, 特別支援学校等で指導者の育成や選手の発掘・育成を行うとともに, 障害者スポーツの拠点形成を図ります。 ○障害者スポーツ普及・定着事業(H29 予算: 9,159千円) <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校等に対する指導者育成を目的とした「アダプト体育・スポーツ指導理論実習」講座を開催。 ・「いきいき茨城ゆめ大会2019へのメッセージ」シンポジウムを開催。 ●障害の有無や程度に関わらず, 障害者スポーツを楽しめる機会として, 「障害者スポーツ教室」を県内各地で開催しています。 <p>※再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度の障害者スポーツ教室実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・8回実施(予定), 参加者数500名程度 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成30年度以降の寄附講座の研究内容は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ○「障害者スポーツ普及・定着事業」(H30 予算案: 20,000千円) <ul style="list-style-type: none"> ・県内障害者スポーツ拠点に関する実態調査 ・障害種別・程度に合った指導方法の研究 ・障害者スポーツボランティアの育成 ・特別支援学校と連携した拠点形成のモデル作り など ●スポーツ教室を開催し普及啓発に努めてまいります。※再掲 	

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>④ 全国障害者スポーツ大会会場のバリアフリー化や必要用具等の整備 【※再掲：1(4)④】</p> <p>○ 県営・市町村施設における利活用の促進</p>	<p>【現在の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技会場の整備については、誰もが安全で快適に大会を楽しむことが出来るよう、会場のバリアフリー等に関する仮設整備を行うため、競技会場整備基本設計を策定しています。 〔第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技会場整備基本設計委託）〕（H29予算：8,204千円） ● 用具等の整備については、競技運営に要する競技用具を効率的かつ計画的に整備するため、競技運営主管団体に対し、競技用具整備調査を実施しています。 ● 高齢者や障害者など、すべての人が利用する体育館などの公共的施設のバリアフリー化を推進しています。 「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、多くの人が利用する体育館などの公共的施設のバリアフリー化を推進しています。 ● 競技団体等が行う大会に向けた練習会の実施や必要な競技用具購入に対して支援を行っています。 ・補助の内容：上限180千円／団体（補助率 10/10） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技会場の整備については、平成29年度に策定した基本設計を基に、備品リスト、仮設整備詳細設計やバリアフリー整備配置図及び会場サイン設計を行う競技会場整備実施設計を策定します。 〔第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技会場整備実施設計委託）〕（H30予算案：17,359千円） ● 用具等の整備については、平成29年度に調査した結果を基に、障害者特有の用具など、納品までに時間がかかる用具については、先行して整備を進めます。 〔第19回全国障害者スポーツ大会推進事業費（競技用具整備）〕（H30予算案：7,051千円） ● 上記事業を行い、施設のバリアフリー化や必要な競技用具の整備を推進してまいります。 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県営・市町村施設のスポーツ施設について、障害者の利用に関する情報収集を行っています。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害者に対し、県営・市町村施設に関する利用料の減免や優先予約などの情報提供を積極的に行ってまいります。 また、茨城県障害者スポーツ・文化協会と連携し、障害者団体を通じて障害者に対するスポーツ大会の開催案内をするとともに、ホームページ等を活用し、障害者スポーツに関する情報を広く県民に発信してまいります。

提言項目

○特別支援学校におけるスポーツ活動の体制強化

【現在の取組状況】

●特別支援学校では、次のとおり各種スポーツ大会を実施しています。

- ・茨城県特別支援学校体育連盟体育大会
 - 水戸地区 1,011名
 - 県南地区 863名
 - 県西地区 597名
- ・茨城県特別支援学校体育連盟知的障害スポーツ競技会 626名
- ・陸上競技の部、フライングディスク競技の部、卓球競技の部、サッカー競技の部
- ・茨城県特別支援学校体育連盟肢体不自由スポーツ競技会 154名
- ・陸上競技の部、ハンドサッカーの部
- ・特別支援学校体育連盟 関東・全国大会に出場
関東大会 91名、全国大会 13名
- 特別支援学校では、現在、伊奈特別支援学校、つくば特別支援学校など17校で体育施設の一般開放を行っております。
(体育館14校、グラウンド11校)

【今後の予定】

- 引き続き特別支援学校における児童生徒の体力向上とスポーツ活動の推進に取り組んでまいります。
- 特別支援学校の体育施設一般開放については、引き続き実施してまいります。

【現在の取組状況】

- 各種スポーツ大会や練習会において福祉・医療系の大学や専門学校の学生等にボランティア活動への参加を呼びかけています。
 - ・平成29年度スポーツ大会におけるボランティア参加数
 - ・ゆうあいスポーツ大会 265名
 - ・身体障害者スポーツ大会 71名

【今後の予定】

- 運営ボランティアを依頼し、障害者がスポーツに取り組みやすい環境づくりに努めてまいります。

3 両大会等を通じた地域活性化に向けた取組

(1) ボランティア等の養成及び活用

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>① 〇観光マイスター制度を積極的に活用したボランティアの確保・養成 【※再掲：1(3)①】</p> <p>〇本県開催のスポーツイベント等でボランティアが活躍できる環境等の整備検討</p>	<p>【現在の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光マイスターの方々に、運営ボランティアに登録していただき、おもてなしのリーダーとして活動していただくため、関係部局と調整しています。 ●観光マイスター認定者を活用し、マイスター制度の認知度向上や県内のおもてなし人材の確保・育成に向け、以下の取組等を実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・メディアへの出演（ケーブルテレビJWAWY出演 10回×各1名） ・おもてなし等の講師派遣（取手市立藤代中学校（総合学習）2回×1名，JAF講演会1回×2名） ・いばらきっ子郷土検定への参加（1回×2名） ・県民大会やおもてなし講座における、観光案内の参考実演（計15回・名） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光マイスターの方々の配置，活動場所等の検討 ●引き続き，マイスター制度を活用した，おもてなし人材の確保・育成に努めてまいります。また，観光マイスター認定者に両大会でのボランティア活動について周知を行いますとともに，ご協力頂ける方については，おもてなしのリーダーとしてご活躍いただけるよう活用を図ってまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし講座の実施，マイスター認定者の活用 <p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各種スポーツ大会において福祉・医療系の大学や専門学校の学生等にボランティア活動への参加を呼びかけています。※再掲平成29年度スポーツ大会におけるボランティア参加数・ゆうあいスポーツ大会 265名 <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者スポーツ大会 71名 ●高校生等を中心に「学生ジャーナリスト」を活用して情報発信を図っています。 <p>「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会学生ジャーナリスト活用事業」</p> <p>概 要：県内の学生が競技や関連行事，文化活動等の取材を行い，情報発信。2つの大会に係る情報発信の充実を図るとともに，2つの大会をきっかけに学生の情報発信に係るスキルを育み，将来的な本県の魅力発信力を強化。</p> <p>参加者：高校・大学・短期大学・専門学校に在学する学生で，茨城県内に在住又は県内に通う方 28名</p> <p>活 動：(H29)取材方法研修会，取材体験会</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運営ボランティアを依頼し，障害者がスポーツに取り組みやすい環境づくりに努めてまいります。※再掲また，スポーツ教室や練習会を開催し，ボランティアの活躍の機会の拡大に努めてまいります。 ●学生ジャーナリストを活用し，リハール大会や本大会に加え，オリンピック・パラリンピック関連の事業についても取材・情報発信することで，学生の情報発信に係るスキルを育み，将来的な本県の魅力発信力を強化してまいります。

② スポーツ文化の振興

提言項目	現在の取組状況、今後の予定等
<p>① ○スポーツイベントの開催やスポーツ合宿・キャンプの誘致などスポーツツーリズムの積極的な推進</p> <p>○特定の競技やターゲット等を明確にするなど、戦略的なスポーツツーリズムの取組</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茨城空港就航先の旅行会社に対し、スポーツを絡めた旅行商品の造成を働きかけるとともに、茨城空港を利用してスポーツ大会や合宿に参加する団体等を支援しています。 ●「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を核として、日本一のサイクリングエリアの形成を目指し、サイクリング環境整備に取り組みんでいます。 ・案内表示や休憩施設等の整備 ・サポーステーションの登録拡充 ・広域レンタサイクルの実施 ・サイクリングセミナーの開催 ・ツアー造成、雑誌等による情報発信等 ●サイクリングイベントを開催しました。 ・イベント名称：サイクリングイベント「りんりんフェスタ～つくば霞ヶ浦サイクリング～」 ・開催日：平成29年10月14日 ・会場：かすみがうら市歩崎公園 他・来場者：約1,500名 ●サイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」を整備します。 ・開業日：平成30年3月29日 ・機能：自転車の販売・修理、レンタサイクル、シャワー、ロッカー、情報発信等 ●サッカー等のスポーツ合宿の拠点として、神栖市矢田部サッカー場の整備を行っています。 ●アウトドア事業者と連携し、以下の取組を実施しました。 <p>【体験ツアーの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年8月26日 カヌー・ラフティング体験ツアー（竜神ダム湖） ・平成29年9月9日～10日 キャンプ体験ツアー（里山ホテル） ・平成29年10月21日 トレッキング体験ツアー（袋田の滝～月居山） <p>【体験イベントの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年11月3日、4日 いばらき県北あそびフェス2017（大子広域公園多目的運動場） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、旅行会社やスポーツ団体等に対し、積極的に働きかけるとともに、観光いばらきHPやSNSを活用し、スポーツイベント情報などを積極的に発信してまいります。 ・旅行商品造成支援、メディアを活用した情報発信、観光キャンペーンの実施等 ●今後は、「りんりんスクエア土浦」の開業を契機とし、サイクリングコースや沿線市町村の観光情報等について情報発信を強化してまいります。 ●地域振興に資するサイクリングイベントの開催について、検討してまいります。 ●神栖市矢田部サッカー場等を活用し、スポーツ交流に取り組みてまいります。 ●市町が民間等と協働し、アウトドア事業に取り組み場合に、「県北地域活力創造プロジェクト事業」の中で取組を支援してまいります。

現在の取組状況、今後の予定等	
<p>② アマチュアチームとプロチーム・企業チームとの連携体制の構築検討</p>	<p>現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「スーパーアドバイザー招へい事業」を活用し、各競技団体がアマチュアチーム、プロチーム、企業チームそれぞれと連携を図り、競技力向上に努めています。 ● 茨城国体に向けた強化指定制度を活用して、企業チームへの支援を行っています。 ● 社会人雇用推進プロジェクトにより、県内企業に社会人選手の雇用を検討していただいています。 <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域スポーツの活性化を図るため、アマチュアチームとプロチーム・企業チーム同士の連携体制の構築に向けて、関係各課と検討してまいります。
<p>③ 国体後の市町村における当該競技の普及啓発やジュニア選手の発掘・育成等への継続支援 【※再掲：2(1)④】</p>	<p>現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技団体と市町村が連携して選手の発掘・育成に取り組む事業を支援しています。 [元氣いばらき選手育成強化事業（会場地選手強化支援事業）]（H29 予算：6,000 千円） (1) 対象事業 競技団体と競技開催市町村が行う競技体験、P.R.、強化練習等の事業 (2) 補助率 10/10（上限 300 千円） (3) 実績 実施競技数：26 競技 実施回数：延べ 91 回 実施市町村：26 市町村 ● 国体終了後の競技力の維持・向上について、県スポーツ推進審議会へ諮問をし、審議しているところです。 <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ジュニア層の発掘・育成等の継続支援については、県スポーツ推進審議会において、外部からの専門家から意見をいただくなどし、検討を進めてまいります。 ● スポーツ推進審議会からの啓蒙を受け、県としての計画を策定してまいります。
<p>④ 県民がスポーツに親しむことができる環境等の整備</p>	<p>現在の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体育・スポーツ推進事業の企画・立案や運営及びスポーツグループの育成や運営等の指導にあたる生涯スポーツ指導員を養成しています。 (1) 対象者 スポーツ推進委員、市町村教育委員会から推薦を受けた者、生涯スポーツ団体および総合型地域スポーツクラブ等関係者 (2) 実績 平成 28 年度：認定者数 53 名、平成 29 年度：30 名 ● 高齢者スポーツの祭典である全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）へ選手団を派遣しています。 <p>【H29 実績】</p> <p>大会名称：第 30 回全国健康福祉祭あきた大会（ねんりんピック秋田 2017） 開催日・場所：平成 29 年 9 月 9 日（土）～12 日（火） 秋田県内 17 市町村 参加種目：18 種目（ゲートボール、グラウンドゴルフ、卓球、水泳、サッカーなど） 派遣人数：152 名を派遣（監督、随行など含む）</p>

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
⑤	○スポーツコミッションをはじめとした専門的組織の整備検討	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツを活用した地域活性化をテーマに、学識経験者、プロスポーツクラブ等と勉強会（4回）を実施し、スポーツコミッションのあり方や、スポーツ大会などの経済効果等について調査、研究を行いました。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市町村がスポーツ資源を活用し、有効な取組を実施（スポーツコミッション機能の発現）していくために必要となる「スポーツツテラシー」の向上を図ってまいります。

(3) 観光をはじめとした産業の振興

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
①	○スポーツイベントの開催やスポーツ合宿・キャンプの誘致などスポーツツーリズムの積極的な推進【※再掲：3(2)①】	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茨城空港就航先の旅行会社に対し、スポーツを絡めた旅行商品の造成を働きかけるとともに、茨城空港を利用してスポーツ大会や合宿に参加する団体等を支援しています。※再掲（平成29年度実績）5団体・116名送客予定（平成30年3月6日現在） ●「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を核として、日本一のサイクリングエリアの形成を目指し、サイクリング環境整備に取り組んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> ・案内表示や休憩施設等の整備 ・サポーストステーションの登録拡充 ・広域レンタサイクルの実施 ・サイクリングセミナーの開催 ・ツアー造成、雑誌等による情報発信等 ●サイクリングイベントを開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・イベント名称：サイクリングイベント「りんりんフェスタ〜つくば霞ヶ浦サイクリング〜」 ・開催日：平成29年10月14日 ・会場：かすみがうら市歩崎公園外 ・来場者：約1,500名 ●サイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・開業日：平成30年3月29日 ・機能：自転車の販売・修理、レンタサイクル、シャワー、ロッカー、情報発信等 ●サッカー等のスポーツ合宿の拠点として、神栖市矢田部サッカー場の整備を行っています。 ●アウトドア事業者と連携し、以下の取組を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年8月26日 カヌー・ラフティング体験ツアー（竜神ダム湖） ・平成29年9月9日～10日 キャンプ体験ツアー（里山ホテル） ・平成29年10月21日 トレッキング体験ツアー（袋田の滝～月居山） <p>〔体験ツアーの開催〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年11月3日、4日 いばらき県北外あそびフェス2017（大子広域公園多目的運動場）

提言項目		現在の取組状況、今後の予定等
		<p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、旅行会社やスポーツ団体等に対し、積極的に働きかけるとともに、観光いばらきHPやSNSを活用し、スポーツイベント情報などを積極的に発信してまいります。 ・旅行商品造成支援、メディアを活用した情報発信、観光キャンペーンの実施等 ●今後は、「りんりんスクエア土浦」の開業を契機とし、サイクリングコースや沿線市町村の観光等について情報発信を強化してまいります。 ●地域振興に資するサイクリングイベントの開催について、検討してまいります。 ●神栖市矢田部サッカー場等を活用し、スポーツ交流の促進に取り組みんでまいります。 ●市町が民間等と協働し、アウトドア事業に取り組みする場合に、「県北地域活力創造プロジェクト事業」の中で取組を支援してまいります。
②	<p>○スポーツツーリズムの推進における受入体制の整備等の推進</p> <p>その他以下の取組</p> <p>○スポーツイベント等と観光資源を組み合わせたルートの設定</p> <p>○バスツアーによる旅行商品の造成</p>	<p>【現在の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茨城空港就航先の旅行会社に対し、スポーツを絡めた旅行商品の造成を働きかけております。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、市町村等と連携し、県内で楽しめるスポーツ体験やスポーツイベントを組み入れた観光ルートの策定や、旅行商品の造成を支援してまいります。 ・旅行商品造成支援、メディアを活用した情報発信、観光キャンペーンの実施等 ・観光に係る情報発信、観光キャンペーンの実施、旅行商品造成支援、地域イベントへの支援等 ●宿泊施設の充実については、新たに宿泊施設の魅力向上に向けたコンサルティングを実施しますとともに、県のフラッグシップとなり、観光イメーজの向上に資するようなホテル等の誘致活動等を推進してまいります。 ・宿泊施設の魅力向上に向けたコンサルティング ・ホテル等の需要動向などの調査及び誘致活動の推進、ホテル等の立地に対する補助を支援